

An aerial photograph of a wide river valley. The river flows from the top left towards the bottom right. The valley floor is a mix of green fields and brownish soil. In the distance, there are layers of blue mountains under a clear sky. A small town is visible on the left bank of the river, and a dam or bridge structure is visible in the lower part of the image.

# 肱川かわまちづくり全体構想

水郷文化とともに育ち続けるかわまちづくり

令和2年1月

肱川かわまちづくり協議会

## 目 次

1 肱川かわまちづくりの目的と位置付け	1
1.1 肱川かわまちづくりの目的	1
1.2 対象地域	3
1.3 上位・関連計画と肱川かわまちづくり計画の位置付け	4
2 現況及び問題点と課題の把握	5
2.1 大洲市の概況	5
2.2 肱川及び肱川流域の概況	13
2.3 肱川におけるかわまちづくりへの住民の意見・要望	24
2.4 現況と問題点の整理	27
2.5 課題の抽出	28
3 肱川かわまちづくりの整備方針	29
3.1 肱川かわまちづくりの理念	29
3.2 肱川かわまちづくりの方針	29
3.3 整備方針(ゾーニング)	30
3.4 肱川かわまちづくり推進体制	32
4 肱川かわまちづくりの整備構想	34
4.1 肱川かわまちづくり整備計画構想	34
4.2 肱川かわまちづくり全体スケジュール	37

# 1 肱川かわまちづくりの目的と位置付け

## 1.1 肱川かわまちづくりの目的

大洲市街地を貫流する肱川は、愛媛県最大の河川で、流れ込む支流が474本と非常に多いうえ、その勾配は緩く、特に中流域の大洲盆地で一気に平野が開け、流れは一段と緩やかになる。加えて、大洲盆地下流端で矢落川が合流し、ここより下流の五郎(地名)から河口の長浜までの区間は、両岸に山脚が迫る先行性河谷を形成し河道は狭窄している。このように、大洲盆地は水が溜まりやすい構造になっており、古くから頻繁に水害に見舞われてきた。

肱川における水害は、江戸時代の記録に残るものだけでも70回を数え、近年でも1995年、2004年、2005年及び2018年に大規模な水害が発生しており、肱川流域に住む人々の暮らしは、まさに水との戦いの歴史であったといっても過言ではない。その名残は、肱川独特の治水施設「ナゲ」、両岸に植えられた防水林、洪水後に田畑の土地の境界が明らかになるように植えられた「境木」等に今も見ることができる。

一方、平時においては、肱川は流域に多くの恵みをもたらし、流域に暮らす人々は、肱川と上手に寄り添いながら生活を営み、独自の文化を育んできた。特に、大洲の旧市街地は「伊予の小京都」とも「水郷大洲」とも呼ばれ、清流肱川沿いには昔ながらの家並みが連担し、国の重要文化財に指定された大洲城、臥龍山荘等の歴史的建造物も数多く、ノスタルジックで、どこか懐かしさを感じさせてくれる景観を呈している。

また、水郷大洲を代表する臥龍山荘不老庵と蓬莱山の緑に囲まれた風景を眺めながら屋形船で緩やかに蛇行する肱川をゆったりと下り、日本三大鵜飼の一つに数えられる「大洲の鵜飼い」を楽しむことができる。

肱川で行われる鵜飼いは、篝火(かがりび)を炊いた鵜船を屋形船が取り囲み、アユ等の魚を獲る鵜を見物するという独特のものである。

また、江戸時代から受け継がれ、肱川の風物詩の一つにもなっている「瀬張り漁」で捕られた清流肱川のアユは、大洲藩の献上品としても選ばれたほどで、カジカとともに大洲を象徴する川魚の一つである。

その他、毎年8月3日と4日の両日に開催



される「川まつり花火大会」、初秋から如法寺河原等で開催される「大洲の芋たき」、大洲藩の伝統泳法「神伝流」を披露する寒中水泳等、肱川を舞台とした四季折々の伝統行事が今も脈々と受け継がれている。

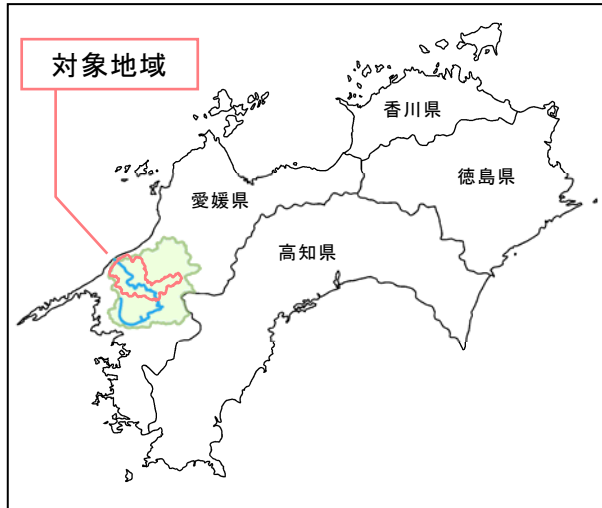
「肱川かわまちづくり事業」は、大洲市、民間事業者、地域住民及び河川管理者が連携・協働し知恵を絞って、このような古から肱川によって育まれてきたノスタルジックで、どこか懐かしさを感じさせる地域独特の景観、歴史、文化、暮らしを次世代に引き継ぎ、将来にわたってまちと水辺が融合した賑わいを創出し、維持・発展させることを目的に実施するものである。





## 1.2 対象地域

肱川かわまちづくりの対象地域は、「まちと水辺が融合した賑わいの創出」を目指し、肱川とその周辺を中心に置き、大洲市全域を対象地域として計画を策定する。



出典：肱川流域平面図  
肱川流域平面図より作成

図1.2 肱川かわまちづくり全体構想の対象地域

### 1.3 上位・関連計画と肱川かわまちづくり計画の位置付け

肱川かわまちづくり計画の上位計画としては、肱川の整備に関する「肱川水系河川整備基本方針」、「肱川水系河川整備計画」、大洲市のまちづくりに関する「第2次大洲市総合計画」、「大洲市都市計画マスタープラン(改訂中)」がある。

連携して進める必要がある計画に、景観に関する「大洲市景観計画」、「大洲市歴史的風致維持向上計画」、「肱南・肱北地区都市再生整備計画(社会資本総合整備計画書)」、「地域再生計画」、既に整備が終了しており、肱川かわまちづくりの中で活用することが可能な計画に、「肱川水と緑のネットワーク整備計画」と「畑の前地区かわまちづくり計画」が挙げられる。

また、「肱南公民館周辺整備基本構想(案)」や「大洲市観光まちづくり町家活用エリア基本計画」の他、平成30年7月豪雨を受けて「大洲市復興計画」が策定されており、連携して肱川かわまちづくり計画を進める必要がある。

上記の上位計画・関連計画と肱川かわまちづくり計画の位置づけを図1.3に示す。

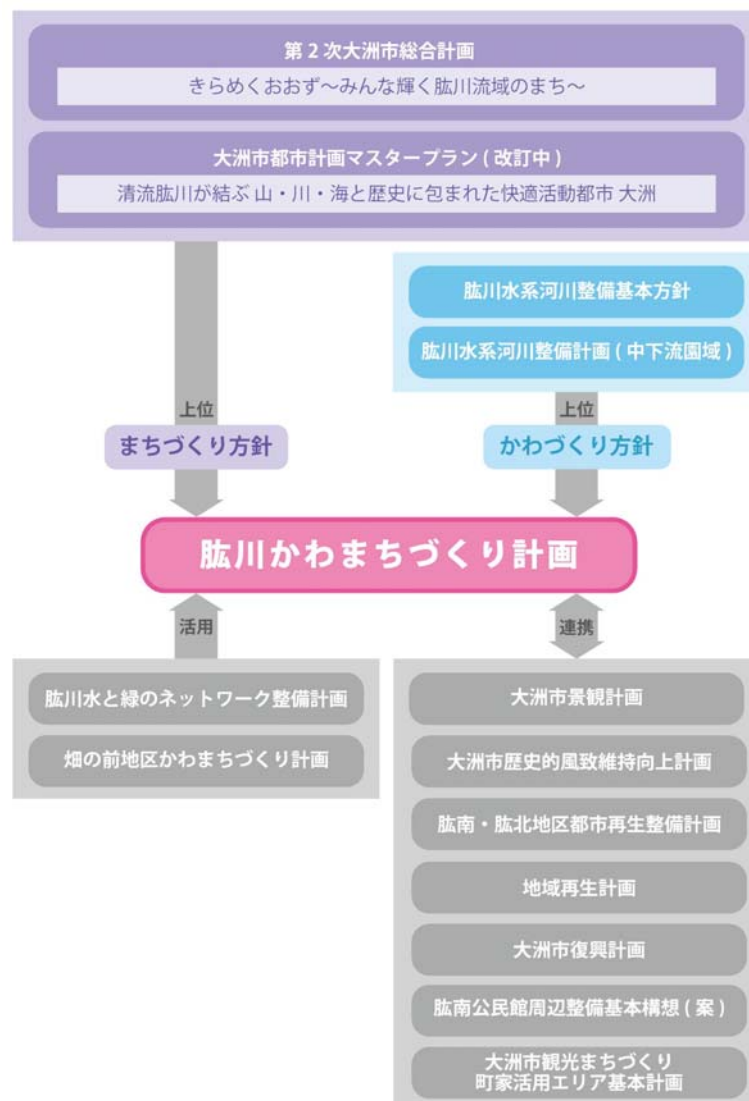


図1.3 肱川かわまちづくり計画の位置づけ

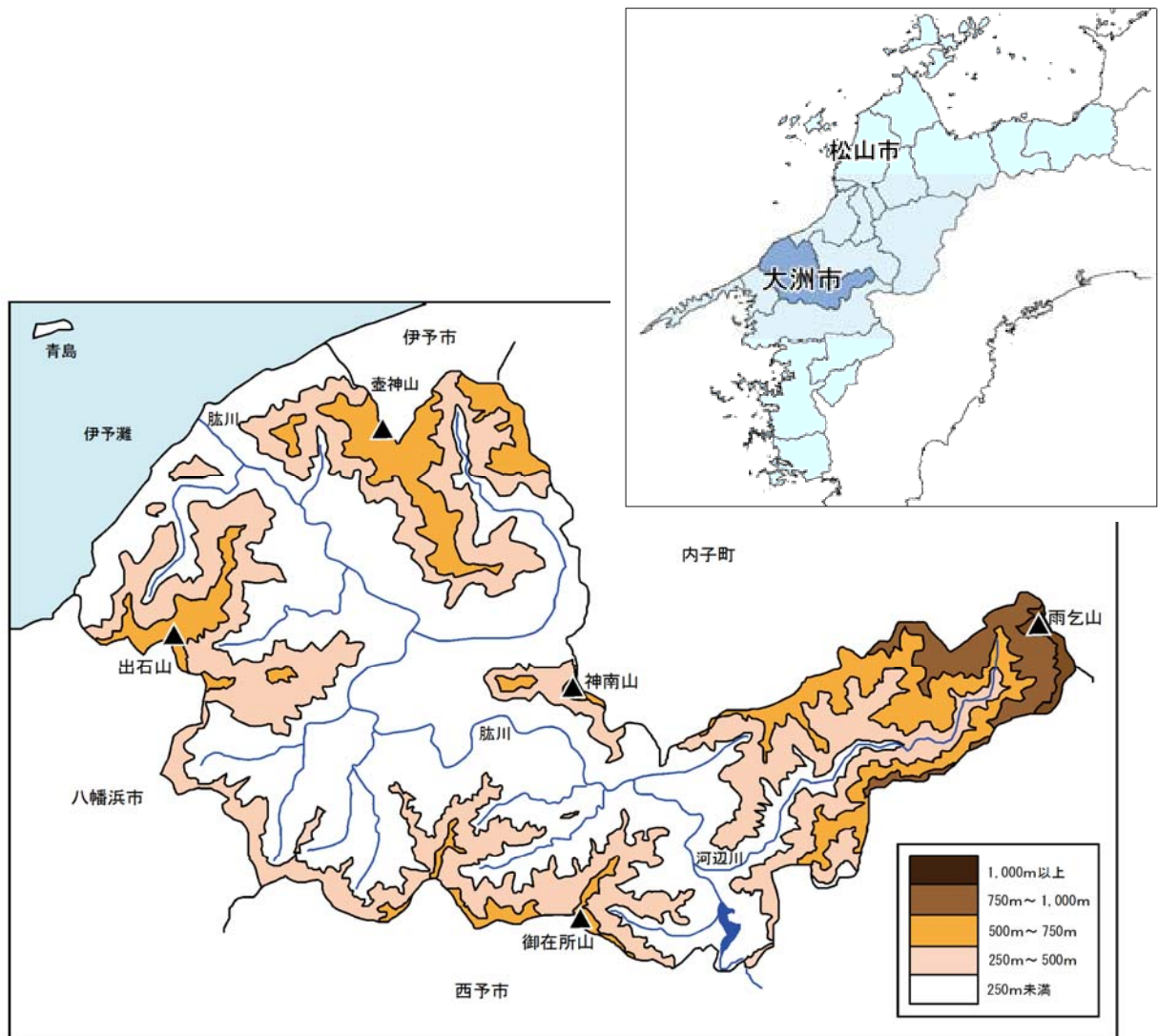
## 2 現況及び問題点と課題の把握

### 2.1 大洲市の概況

#### (1) 地勢

大洲市は、愛媛県の西部に位置し、県都松山市から約50kmの場所に位置する。四国縦貫・横断自動車道やその他高規格道路の整備により、松山方面から八幡浜、宇和島、高知方面への玄関口として、広域流通・商業の拠点形成が進むとともに、文化・交流・観光の面でも重要な結節点となっている。

大洲市の面積は432.2km<sup>2</sup>で、一級河川肱川とその支流の河辺川が中央を流れ、流域に沿って田畑や集落、市街地が形成されている。中央部には大洲平野が開け、西部は瀬戸内海伊予灘に面している。肱川は、河口が狭隘な上に河川勾配も緩やかであり、多くの支川が大洲盆地に集中するといった特性を持つ。そのため大雨時には、たびたび洪水被害に悩まされており、河川環境の保全とともに治水対策が進められている。

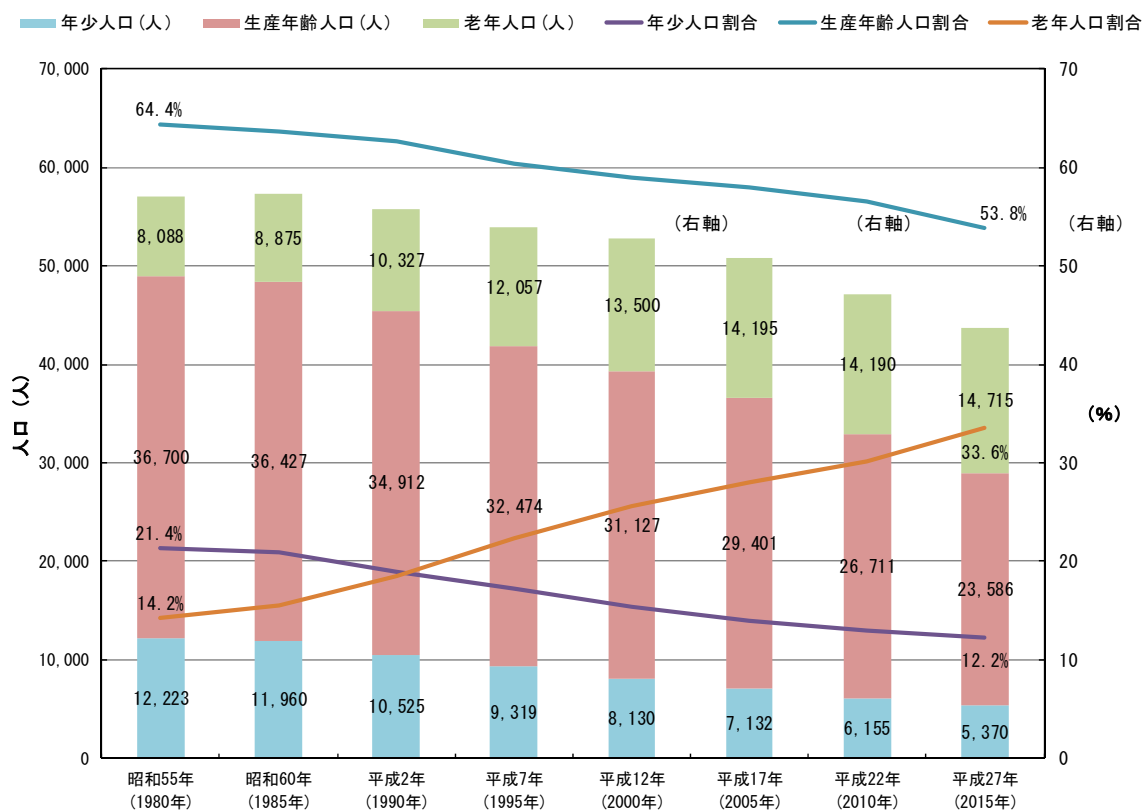


出典：第2次大洲市総合計画「きらめくおおず～みんな輝く肱川清流のまち～」(大洲市) 地勢図より作成

図2.1(1) 大洲市の地勢

## (2) 人口

総人口は一貫して減少傾向にあり、平成27(2015)年時点では44,086人となっている。年少人口・生産年齢人口の割合は年々減少している一方で、老年人口割合は増加傾向にあり、平成27(2015)年時点で33.6%となっており、少子高齢化が進んでいる。



出典：第2次大洲市総合計画「きらめくおおず～みんな輝く肱川清流のまち～」(大洲市)  
総人口と年齢3区分人口の推移より作成

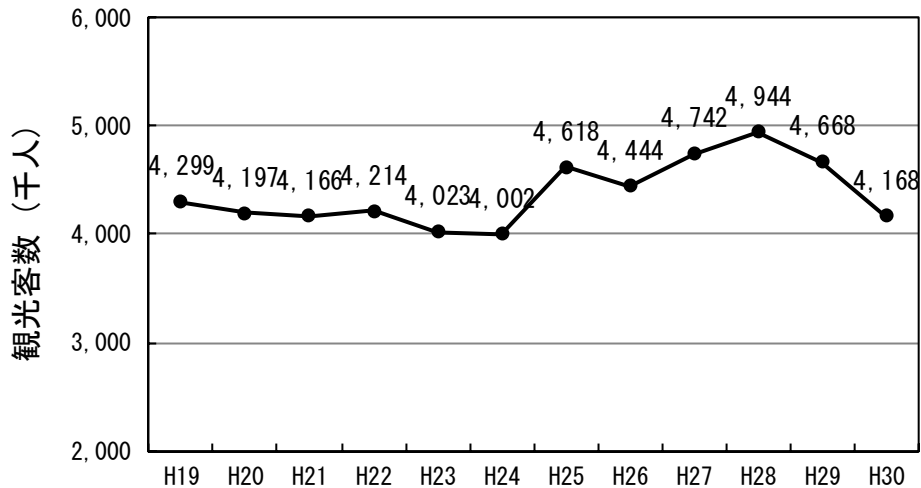
図2.1(2) 大洲市の人口



### (3) 観光

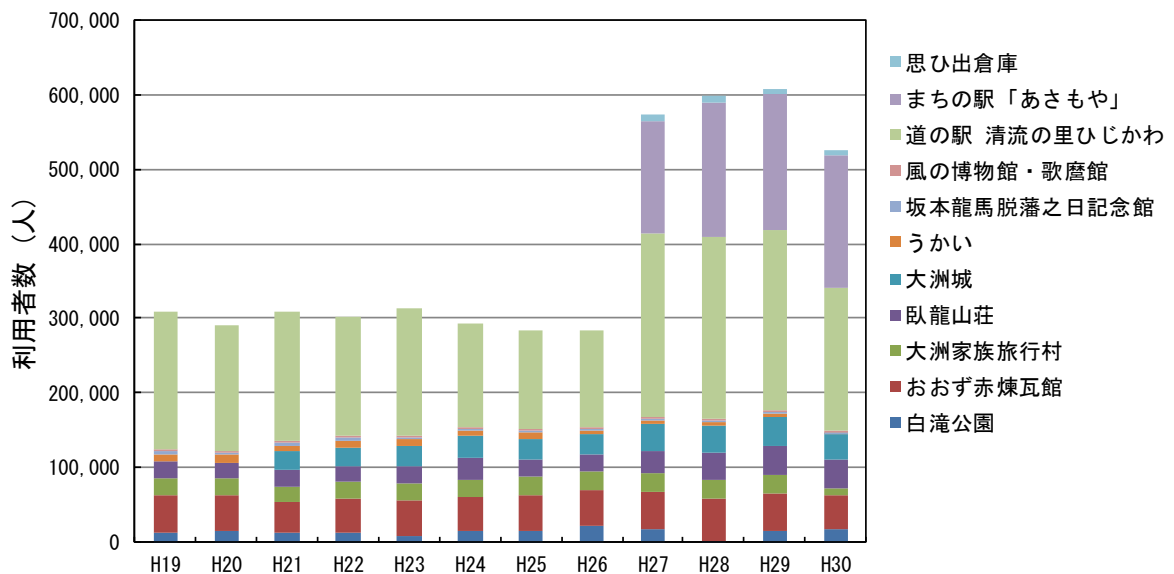
本市は、「伊予の小京都」とも呼ばれ、市の中心部を流れる風光明媚な肱川、ミシュラン観光ガイドの一つ星に選ばれた「臥龍山荘」、さらには「大洲城」や「歴史的町並み」、「金山出石寺」、「長浜大橋」、「鹿野川湖」、「屋根付き橋」等、様々な観光資源がある。八幡浜・大洲圏域を訪れた観光客数は、平成28年までは増加傾向が続いていたが、近年減少傾向にある。平成30年は、平成30年7月豪雨の影響と考えられる。

主な観光地別の利用者数は、まちの駅「あさもや」、清流の里ひじかわが多い。(ただし、思ひ出倉庫、まちの駅「あさもや」は、平成26年以前はデータなし。)



出典：観光客数とその消費額(愛媛県ホームページ)  
観光地区別観光客数より作成

図2.1(3) 八幡浜・大洲圏域を訪れた観光客数



年 出典：観光客数とその消費額(愛媛県ホームページ)  
主要観光施設利用者数より作成

図2.1(4) 主な観光地別の利用者数

#### (4) 観光・景観資源

文化財、都市計画公園の位置を図2.1(5)に示す。大洲市は多数の国、県、市指定の文化財を有し、多くが肱南・肱北地区に集まっている。

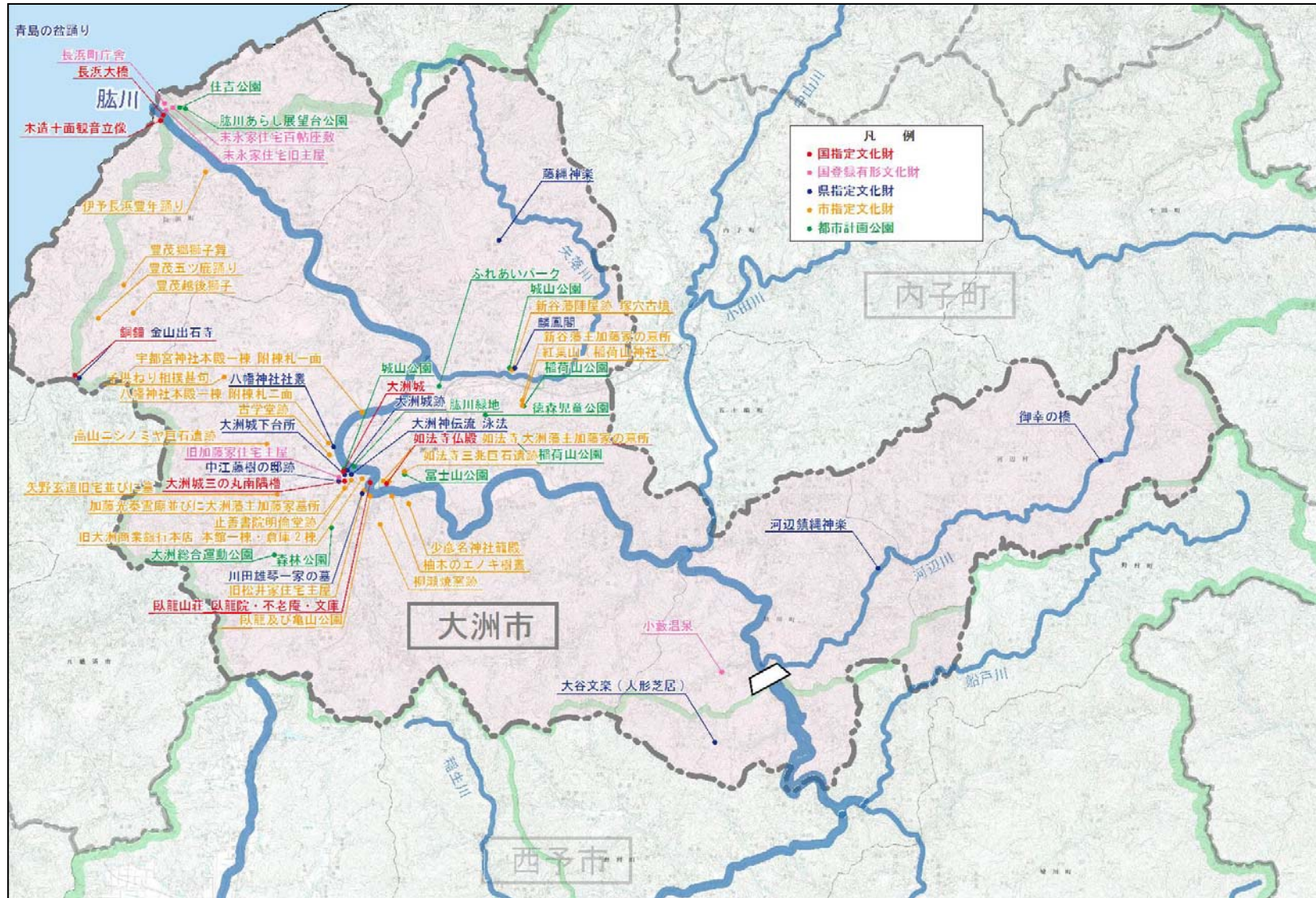


図2.1(5) 大洲市の文化財・都市計画公園位置図

出典：肱川流域平面図  
 肱川流域平面図より作成

## (5) 大洲市のまちづくり

第2次大洲市総合計画の市の将来像は「きらめくおおず～みんな輝く肱川流域のまち～」、大洲市都市計画マスタープランのまちづくりのテーマは「清流肱川が結ぶ 山・川・海と歴史に包まれた快適活動都市 大洲」であり、大洲市のまちづくりにおいて、肱川は非常に重要な位置を占めている。そのため、大洲市が策定している計画には「肱川」に関する記載のあるものが多い。大洲市で策定されている計画で肱川の記載があるもの(国の策定した整備計画を含む)を表2.1(1)に示す。

表2.1(1) 肱川かわまちづくり全体構想の対象地域

	No.	計画・構想等	法的規定等
法で認定を受けているもの	①	大洲市景観計画 H21.3	景観法
	②	大洲市歴史的風致維持向上計画 H24.3 (最終変更H31.3)	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律
	③	肱南・肱北地区都市再生整備計画 (社会資本総合整備計画書) H30.6	都市再生整備特別措置法
	④	八幡浜・大洲地方拠点都市地域基本計画 H5.7	地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律
	⑤	地域再生計画： 更なる高みへ！自転車新文化の推進による愛媛の地方創生実現化事業 H28.8	地域再生法
	⑥	地域再生計画： 地域資源を活用した交流拠点再生計画 H29.2	地域再生法
	⑦	地域再生計画： 大洲市観光まちづくり戦略推進計画 H29.5	地域再生法
法で計画策定が謳われているもの	⑧	肱川水系河川整備計画(変更)【中下流圏域】 R1.12(国)	河川法
	⑨	大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略 H28.3	まち・ひと・しごと創生法
	⑩	大洲市都市計画マスタープラン H20.1	都市計画法
その他	⑪	第2次大洲市総合計画 H29.3	大洲市総合計画の策定等に関する条例 (平成27年大洲市条例第22号)
	⑫	第3期大洲市行政改革大綱&大洲市集中改革プラン H27.6	総務事務次官通知 H17.9
	⑬	大洲市人口ビジョン H28.3	大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略 H28.3
	⑭	肱川水と緑のネットワーク整備計画 H17.4	肱川水系河川整備計画 H16.5
	⑮	城山公園植栽整備計画 H25.11	大洲市景観計画 H21.3、 大洲市歴史的風致維持向上計画 H24.3
	⑯	畑の前地区かわまちづくり計画 H20	—



大洲市で策定されている計画で肱川の記載があるもの(国の策定した整備計画を含む)の概要を表2.1(2)に示す。これらの計画には「歴史」に関する記載も多く、キーワードとして大洲城、臥龍山荘等、鶺鴒い等の記載頻度が高い。大洲市は、「伊予の小京都」、「水郷大洲」の呼び名の示す通り、「肱川」と「歴史」を中心に置いたまちづくりが進められている。計画の中には重点区や軸が設定されているものがあり、肱川は第2次大洲市総合計画で肱川流域連携軸、大洲市景観計画で河川景観軸に指定されている。ただし、方針等では重点区域や軸が設定されているものの、具体的な整備は点的整備が多く、線的・面的整備の計画は少ない。

表2.1(2) 大洲市、肱川に関連する計画 概要一覧

No.	計画名	計画期間	法的規定等	地域指定	肱川に関する具体整備に関する記載	まちづくり資源キーワード	備考
①	大洲市景観計画 H21.3	—	景観法	景観計画区域 河川景観軸 景観重要公共施設指定区域	—	肱川, 富士山, 天守閣, カヌー	全市と大洲拠点の目標に肱川についての目標を設定(大洲における肱川の存在に配慮し、自然要素から独立)
②	大洲市歴史的風致維持向上計画(最終変更H31.3)H24.3	H24年度 ～ R3年度	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律	「大洲城下町」重点区	—	ナゲ, 防水林, 鮎, 瀬張り漁, あおさ干し, 鶺鴒い, いもたき, 大洲城, 川まつり花火大会, 如法寺仏殿, 臥龍山荘	主内容は文化財の修繕等
③	肱南・肱北地区都市再生整備計画(社会資本総合整備計画書) H30.6	H27年度 ～ H31年度	都市再生整備特別措置法	都市再生整備計画区域	・臥龍山荘付近に広場を整備 ・肱川橋周辺まちづくり活動促進のためのワークショップ開催	清流肱川, 伊予の小京都, 臥龍山荘, 大洲城, 肱川橋	大目標「清流肱川と歴史的景観資源を活かした来訪者の受け入れ強化を行いつつ、安心・安全な生活環境の創出により、快適で住みやすいまちづくりを目指す。」
④	八幡浜・大洲地方拠点地域基本計画 H5.7	—	地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律	大洲拠点地区(大洲市)	・河川、下水道をはじめとする生活基盤の整備	—	—
⑤	地域再生計画：更なる高みへ！自転車新文化の推進による愛媛の地方創生実現化事業 H28.8	H28年度 ～ R2年度	地域再生法	—	・「愛媛マルゴト自転車道」の「奥伊予・肱川清流街道」ブルーライン整備	サイクリング, 坂本龍馬の脱藩ルート	愛媛県内の県市町による計画
⑥	地域再生計画：地域資源を活用した交流拠点再生計画 H29.2	H28年度 ～ R2年度	地域再生法	—	・サイクリングコース等を活用した観光メニューの開発・提供 ・地域資源をつなぐサイクリングコースの設定	鹿野川荘, 大洲城, 臥龍山荘, 歴史的町並み, 鶺鴒い, サイクリング, サイクルオアシス	主内容は鹿野川荘の改修等
⑦	地域再生計画：大洲市観光まちづくり戦略推進計画 H29.5	H29年度 ～ R1年度	地域再生法	—	・立地適正化計画・都市マスタープランの策定 ・大学と連携した肱南地区町並み調査 ・観光まちづくり戦略会議設置 ・観光まちづくり戦略ビジョンの策定	大洲城, 町並み等の歴史的資源, う飼い	—
⑧	肱川水系河川整備計画(変更)【中下流圏域】 R1.12(国)	概ね30年	河川法	—	(大洲市まちづくりに関連するもの) ・ナゲ等の保全 ・植栽実施、側帯への植樹、桜づつみ等の整備 ・肱川流域清流保全推進協議会の設立 ・川文化保全計画、施策行動計画、住民啓発、河川学習の策定・推進 ・利用者の多い場所の階段整備 ・「肱川を美しくするお花はん」と協同した活動推進 ・大洲城内濠跡水路、河川敷、散策路の整備 ・国立大洲青年の家等の連携、防災ステーションの活用 ・洪水・高潮等による災害の発生防止又は軽減のための河川整備	鶺鴒い, いもたき, 花火大会, 運動公園, 富士山, 臥龍山荘, 花畑, 水防林, 肱川あらし, 赤橋, 大洲城, カヌー, ボート, ナゲ, スジアオノリ, 伊予の小京都, 水郷, 寒中水泳, 流しびな, 大洲まつり, ジュニアトライアスロン, 菜の花やコスモス, 河川防災ステーション	—
⑨	大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略 H28.3	H27年度 ～ H31年度	まち・ひと・しごと創生法	—	・うかいの活性化・継承に向けた支援 ・うかい、カヌー、サイクリング、農山漁村体験等の多様なメニューの提供 ・日本三大いもたきサミット、えひめいやしの南予博2016、えひめ国体2017、第22回鶺鴒サミット大洲大会等	富士山, 長浜港, 青島, 鶺鴒い, いもたき, 臥龍山荘, 長浜大橋, 浪漫八橋	—
⑩	大洲市都市計画マスタープラン H20.1	目標年 H27年	都市計画法	—	・肱川緑地の適切な維持・管理 ・水と緑のネットワーク整備推進事業 ・多自然川づくりの推進、水質浄化、ピオトープの形成等河川環境の整備・保全、親水空間の整備 ・河川の浄化と河川環境の保全を目的とする肱川流域清流保全推進協議会での取り組みの推進	肱川緑地, 江湖, 清流肱川, 臥龍山荘, 大洲城, 城山公園, 防災ステーション, 富士山, 大洲総合運動公園, いもたき, うかい, 龍馬脱藩の道, カヌー	まちづくりのテーマ「清流肱川が結ぶ 山・川・海と歴史に包まれた快適活動都市 大洲」
⑪	第2次大洲市総合計画 H29.3	H29年度 ～ 10年後	大洲市総合計画の策定等に関する条例	(肱川に関係するもの) 土地利用の基本方針における河川・湖沼・海岸ゾーン、肱川地域拠点、肱川流域連携軸	・釣りやカヌー等を活用した誰もが楽しめる川づくりを推進 ・「肱川流域清流保全推進協議会」により、特に都谷川・古川周辺の肱北地区における水質改善に向けた取組を地域住民とともに推進 ・肱川を活かした環境教育や地域ぐるみの郷土美化活動を推進 ・カヌー等の機会を通じて、自然を活用した交流人口拡大を促進	伊予の小京都, 臥龍山荘, 大洲城, 歴史的町並み, 金山出石寺, 長浜大橋, 鹿野川湖, 屋根付き橋, うかい, いもたき, 伊予灘の海岸線, 富士山公園, フラワーパーク大洲, オシドリ	まちづくりの将来像「きらめくおおず～みんな輝く肱川流域のまち～」
⑫	第3期大洲市行政改革大綱&大洲市集中改革プラン H27.6	H27年度 ～ H31年度	総務事務次官通知 H17.9	—	・改革プラン「うかい事業の保全と活用」 運営方法の抜本的見直し、運営基盤の確立	うかい	—
⑬	大洲市人口ビジョン H28.3	—	大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略 H28.3	—	—	うかい, いもたき	目指すべき将来の方向性に、「うかいやいもたき等の観光資源を活用」の記載あり
⑭	肱川水と緑のネットワーク整備計画 H17.4	H22年度 完成目途	肱川水系河川整備計画 H16.5	時の流れに付む景観ゾーン 水がもたらす憩いとやすらぎゾーン 文化と機能の融合空間ゾーン	・町中の水路整備(肱川本川～土堀樋門)(内濠菖蒲園～土堀樋門) ・内濠菖蒲園の環境改善(肱川からの導水、ふれあいの場の整備) ・城山付近の散策路の改善 ・臥龍山荘・蓬萊山付近の散策路の整備 ・船着場の整備 ・水路や濠跡を活かした町中の散策路の充実	大洲城, 内濠跡水路, 水郷大洲, 臥龍山荘, 蓬萊山, 船着き場, 伊予の小京都, 水郷, いもたき, 鶺鴒い, 寒中水泳, 流しびな, 大洲まつり, ジュニアトライアスロン, 花火大会, 菜の花, コスモス, 内濠菖蒲園, 赤煉瓦館, 明治の家並	—
⑮	城山公園植栽整備計画 H25.11	—	大洲市景観計画H21.3 大洲市歴史的風致維持向上計画 H24.3	—	・肱川沿いの河畔林はできる限り保全するとともに、植栽にあたっては地域の気候風土に適合した在来種を用いる。	—	植栽整備の基本理念4つの内の1つ「肱川越しに臨むみどりの景観を整える」
⑯	畑の前地区かわまちづくり計画	H21年度 ～ H31年度	—	畑の前地区	・ふれ愛パークにつながる通路整備、オープンスペースの整備、休憩施設の整備、河畔林の通路整備、河岸の階段整備	菜の花フェスタ, 河畔林, ナゲ, ふれ愛パーク	—



表2.1(2)に示した計画の中で記載されている自然景勝地、歴史的建造物等、まちづくりの資源として活用できる可能性があるものの位置を下図に示す。点在するナゲと浪漫八橋の他は、まちづくり資源の多くが肱南・肱北地区に集中している。

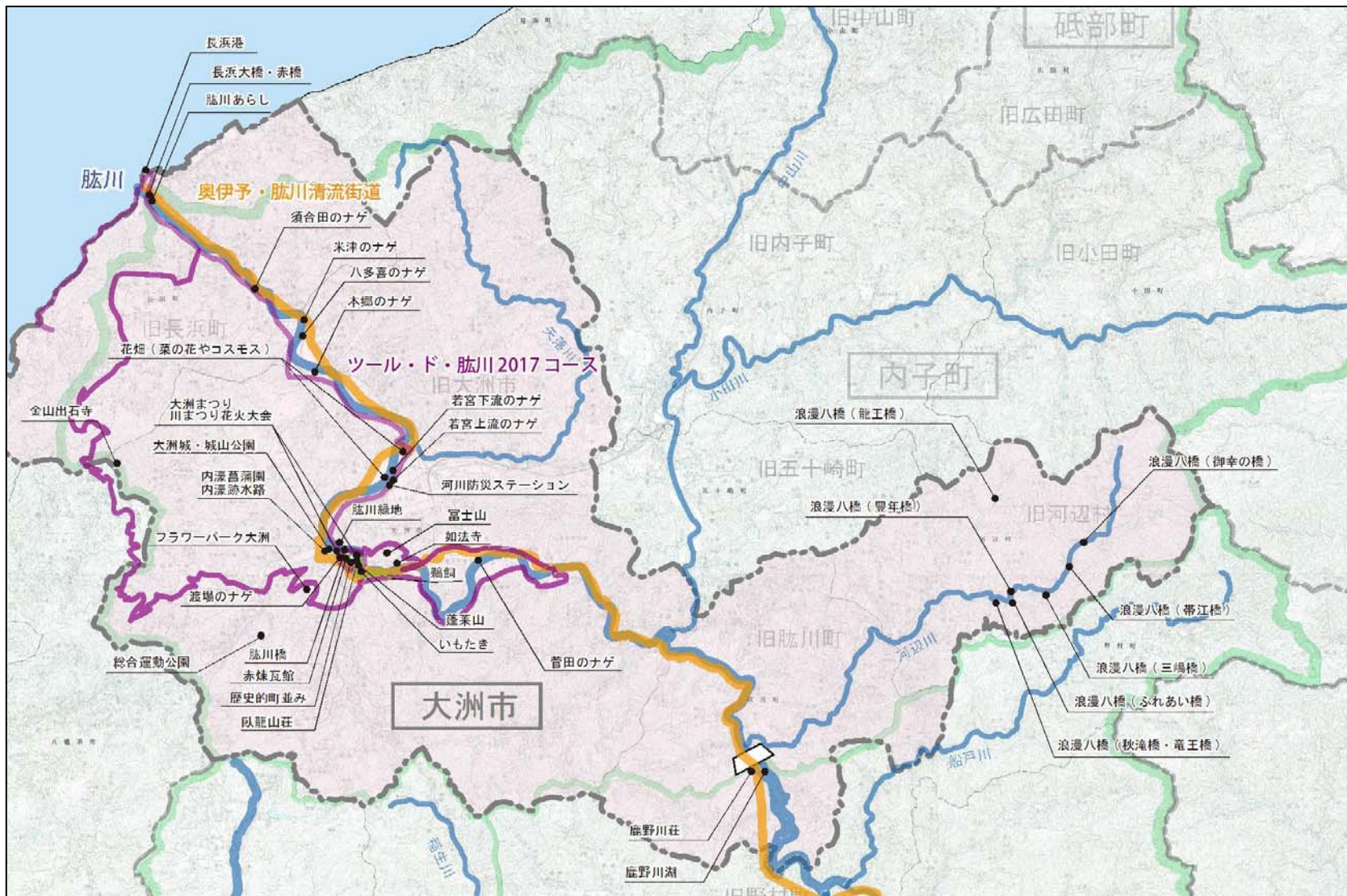


図2.1(6) 大洲市の文化財・都市計画公園位置図

出典：肱川流域平面図  
肱川流域平面図より作成



表2.1(2)に示した計画の中で、地域指定や計画のある区域は下図のとおりである。肱南・肱北地区及びその周辺を重点地区としている計画が多い。

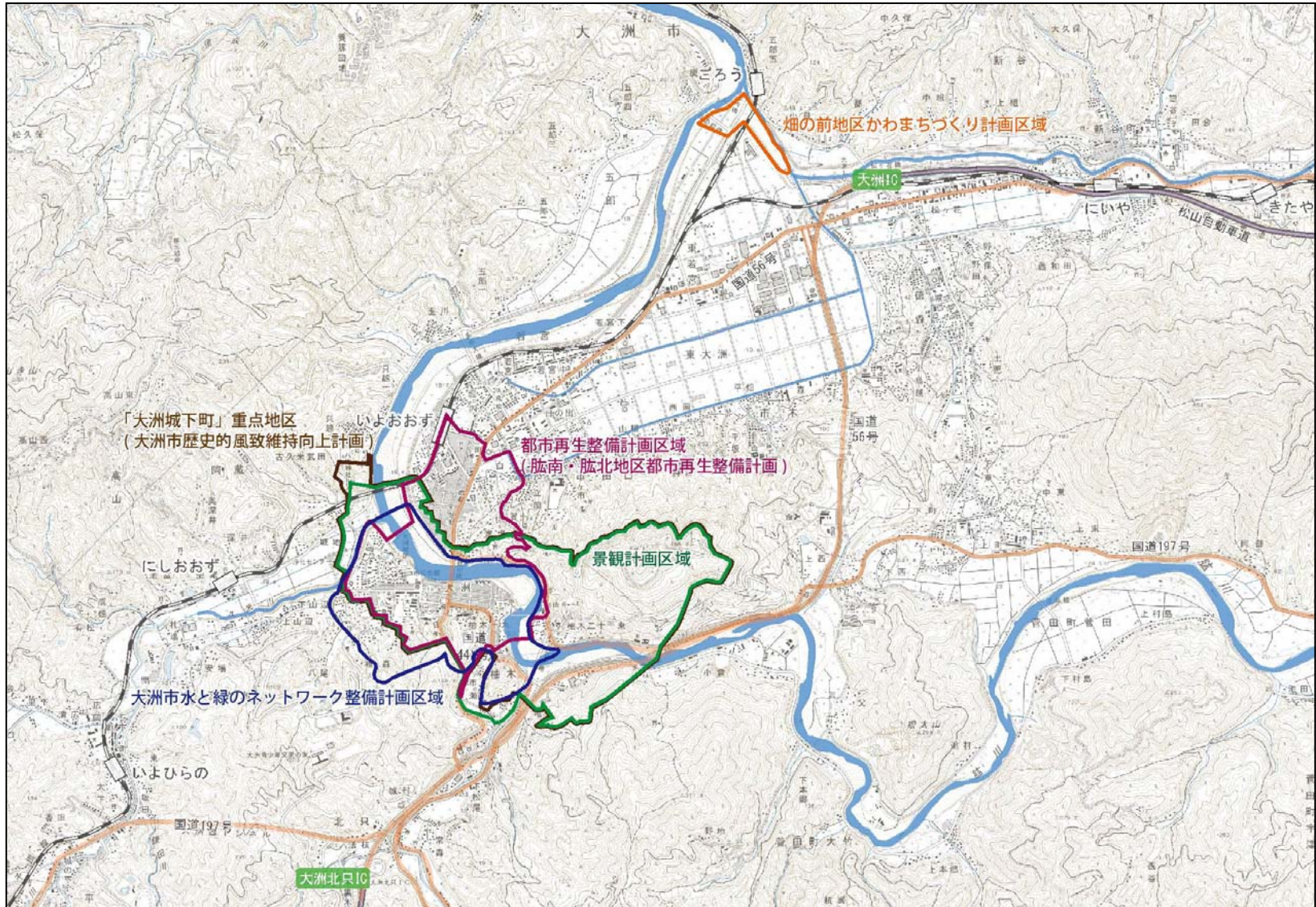


図2.1(7) 肱川が関連する計画における計画区域

出典：2万5千分1地形図(国土地理院)  
大洲・東多田より作成



## 2.2 肱川及び肱川流域の概況

### (1) 肱川の概要

#### [地勢]

肱川は愛媛県の西部に位置し、その源を愛媛県西予市の鳥坂(標高460m)に発し、途中、四国山地の1,000mを越す標高部を源流とする小田川、船戸川等数多くの支川を合わせながら大洲盆地を貫流して、伊予灘に注いでいる愛媛県一の大河川である。

肱川はその名が示すように中流部において“ひじ”のように大きく曲がっており、幹川流路延長103kmに対して、源流から河口までの直線距離はわずか18kmしかない。

肱川流域の約85%が山地で占められ、農地等が約13%、市街地等が約2%で、田畑や宅地の占める割合は小さくなっている。

流域の人口は約10万人であり、大洲市(45%)、西予市(31%)、内子町(19%)で、流域全体の約95%を占めている(河川現況調査結果：基準年平成22年度)。中流部の大洲盆地に人口が集中し、上流の西予市野村町、西予市宇和町でも市街地が形成されている。肱川中流域に位置する大洲市東大洲地区は、平成5年「八幡浜・大洲地方拠点都市地域」の指定を受け、平成12年の四国縦貫自動車道、平成24年の四国横断自動車道の延伸と相俟って内陸型の産業拠点地域として多くの企業が進出し、新たな雇用が生まれている。

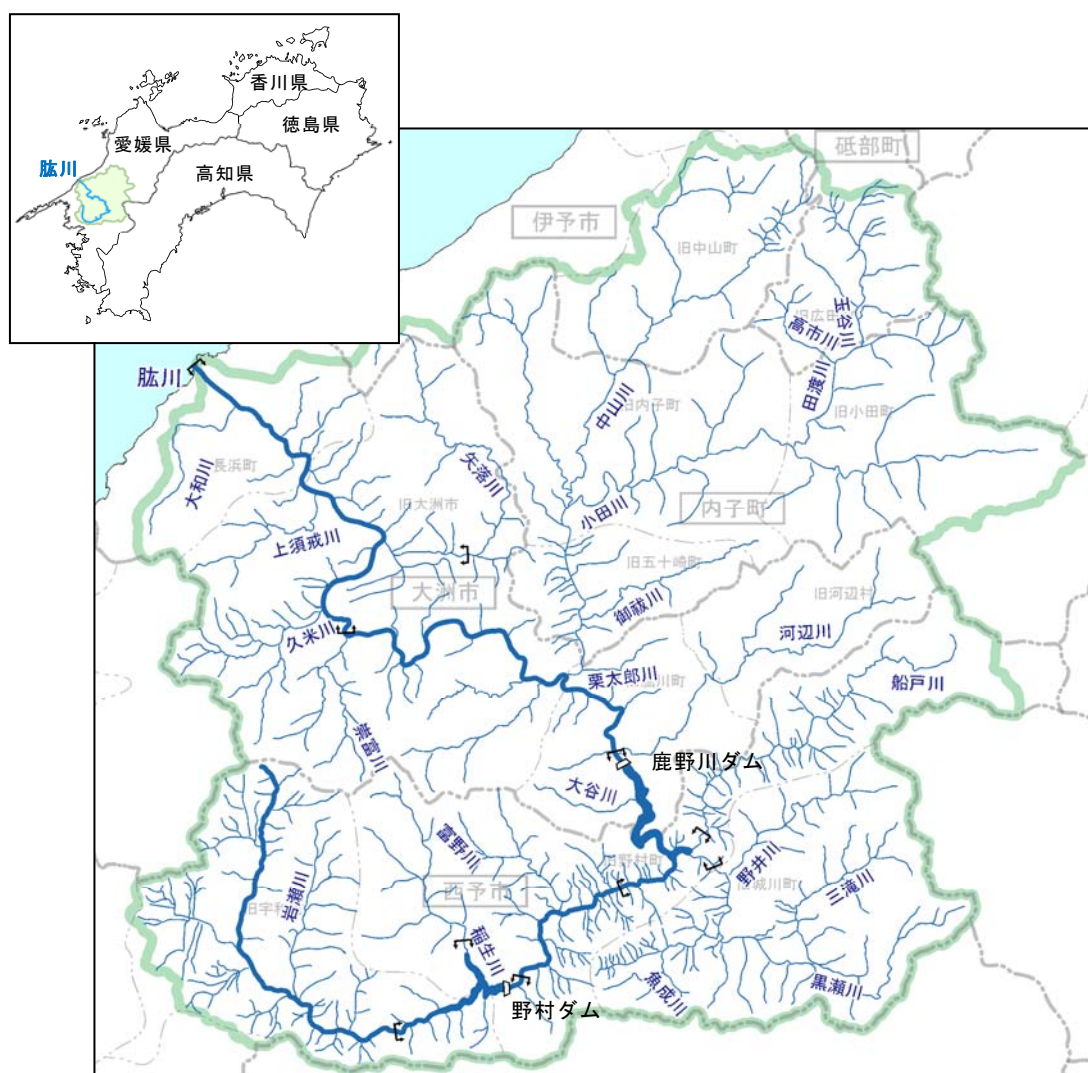


図2.2(1) 肱川位置図 出典：肱川流域平面図  
肱川流域平面図より作成

## [人口]

流域内の人口は3市5町全てが減少傾向にあり、平成14年度末の約11万4千人から平成28年度末には9万5千人まで減少している。流域の人口の約半分は大洲市、3割程度が西予市の人口で、大洲市、宇和町及び野村町の市街地に人口が多い傾向は変わっていない。

年齢区分で見ると、65歳以上は増加傾向にあるのに対し、15～64歳、15歳未満は減少傾向にあり、全国的な傾向と同様に少子高齢化が進んでいる。

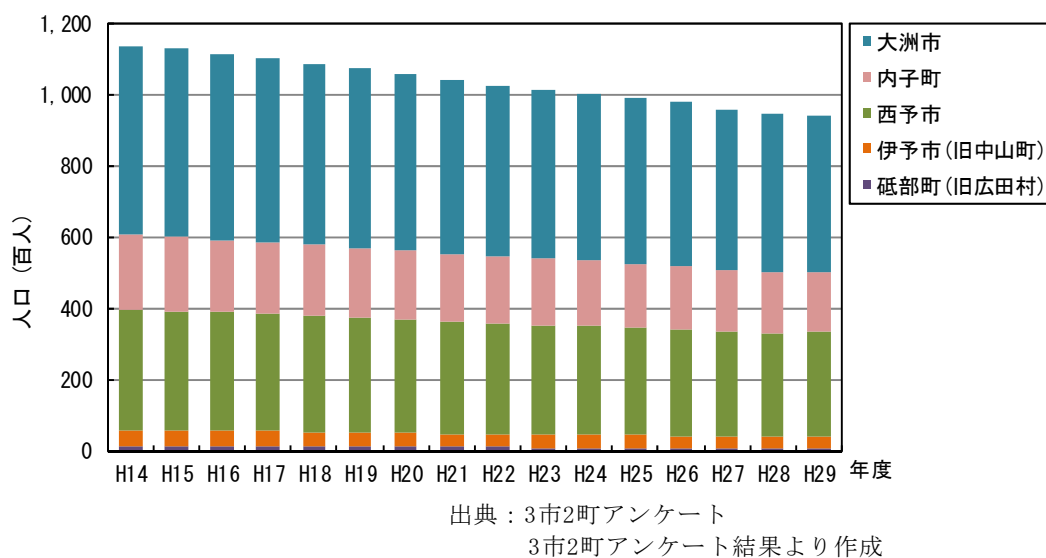


図2.2(2) 肱川流域内人口 (3市2町へのアンケート結果)

※大洲市、西予市(三瓶, 明浜含まず), 内子町, 伊予市(旧中山町), 砥部町(旧広田村)の合計 一部流域外も含む

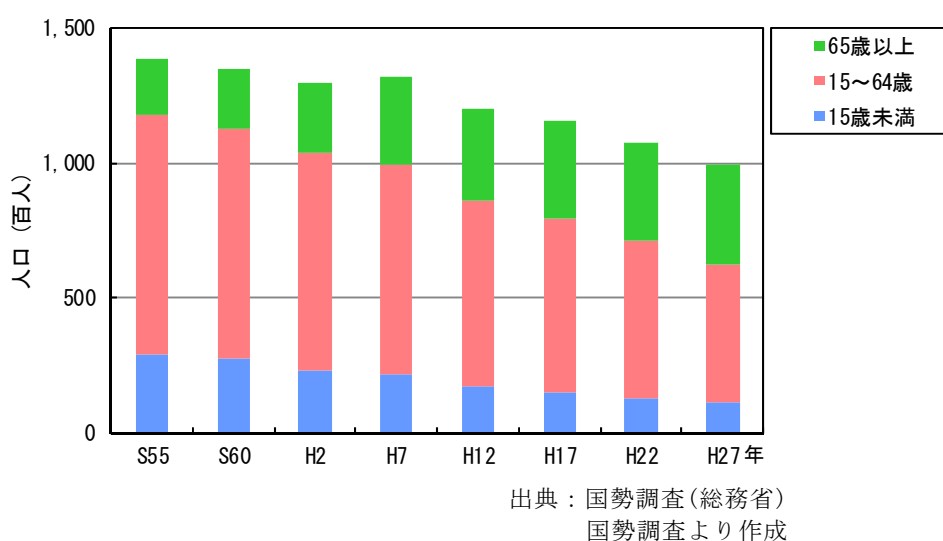


図2.2(3) 流域内年齢区分別人口 (国勢調査)

※ 大洲市・西予市・内子町の合計 西予市は流域外の三瓶・明浜も含む

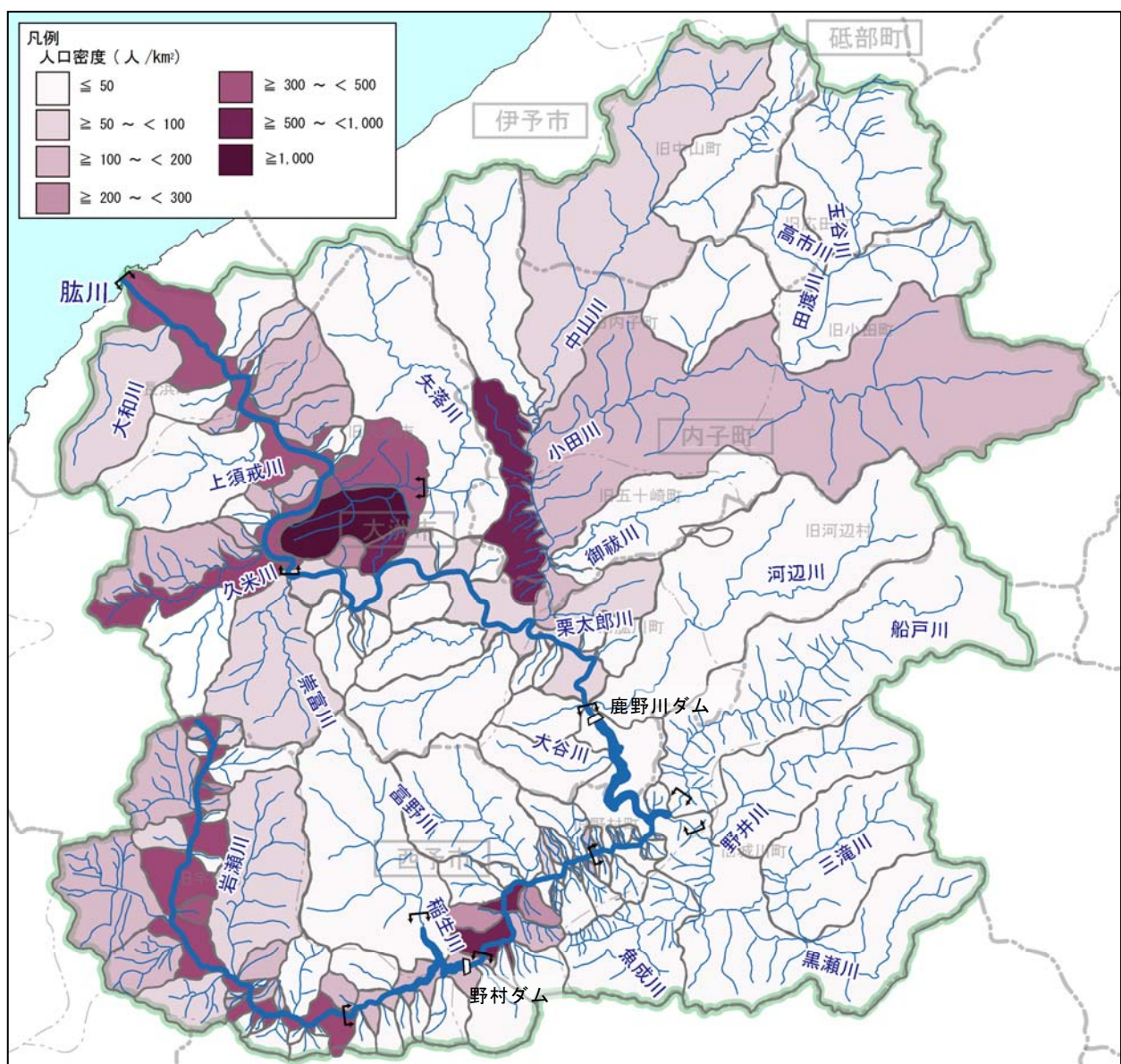


### [人口密度分布]

人口密度は肱川本川沿いでは下流と上流域、野村ダムの下流の一部で高く、支川では矢落川下流、小田川下流で高い。

都谷川流域を含む矢落川下流の流域には交通拠点の大洲ICがあり、四国縦貫自動車道、四国横断自動車道の延伸と相俟って産業拠点地域として多くの企業が進出している。都谷川流域の人口密度は1,372人/km<sup>2</sup>で、他の流域と比較すると著しく人口が密集している。

肱川本川沿いでは野村町市街がある野村ダム下流域も516人/km<sup>2</sup>と比較的人口密度が高い。



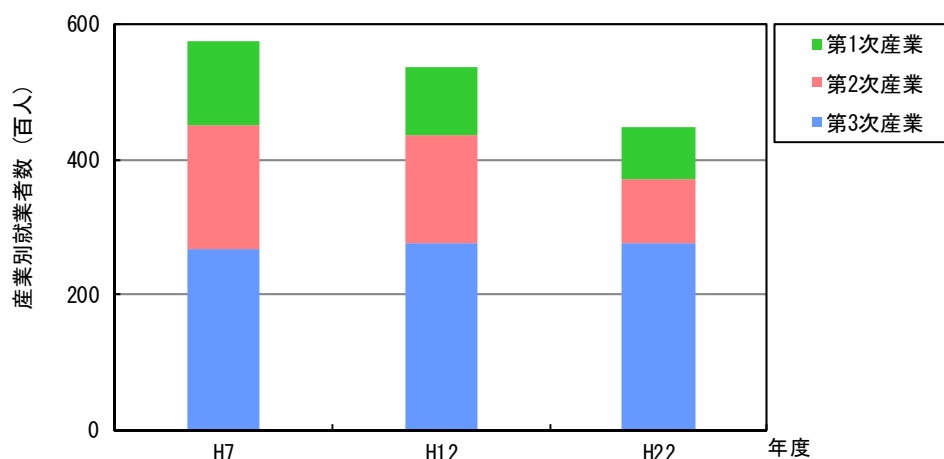
出典：河川現況調査結果(国土交通省)  
河川現況調査結果より作成

図2.2(4) 肱川流域の人口密度分布図 (河川現況調査：基準年平成22年度)

## [産業] 産業別人口

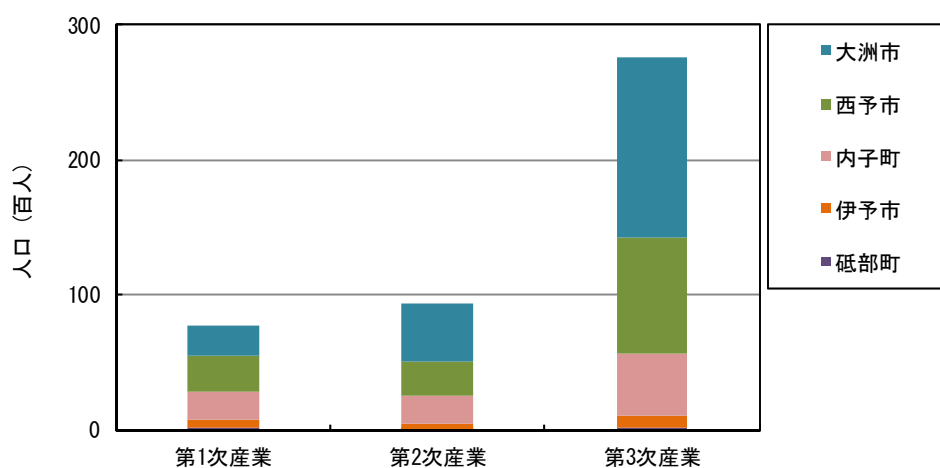
産業別就業者数では第1次産業、第2次産業は減少傾向にあり、第3次産業は同程度で推移している。就業者の高齢化や後継者不足による農業・漁業の衰退、サービス業への就業者のシフトが、全国的な動向と同じく肱川流域でも進んでいると言える。

流域の第1次産業就業者数で大洲市内に住む人の割合は29%で、第2次産業では43%、第3次産業では48%である。流域内では農業・漁業等(第1次産業)に従事する人の割合は西予市や内子町に多く、製造業(第2次産業)やサービス業(第3次産業)に従事する人の割合は大洲市に多い。



出典：河川現況調査結果(国土交通省)  
河川現況調査結果より作成

図2.2(5) 肱川流域内産業別就業者数 (河川現況調査：基準年平成7, 12, 22年度)



出典：河川現況調査結果(国土交通省)  
河川現況調査結果より作成

図2.2(6) 肱川流域内市町村・産業別就業者数 (河川現況調査：基準年平成22年度)

**[産業] 工業**

製造品出荷額は平成6年をピークに減少傾向にあり、平成6年の1,864億円と比較すると、平成29年は726億円で、40%程度まで減少している。特に大洲市の減少は顕著で、平成6年の1,287億円と比較すると、平成29年は298億円で、1/4以下まで減少している。これは、旧松下寿電子工業大洲事業場の縮小・撤退(平成21年10月)が大きな要因と考えられる。近年、肱川の河川改修による浸水対策等が進んでおり、大洲市が東大洲地区等に企業誘致を実施している。

製造品出荷額の詳細を見ると、平成6年の旧大洲市で742億を占めていた電気機械器具の出荷額が平成29年では無くなっている。大洲市の工業都市から商業都市への変遷が伺える。

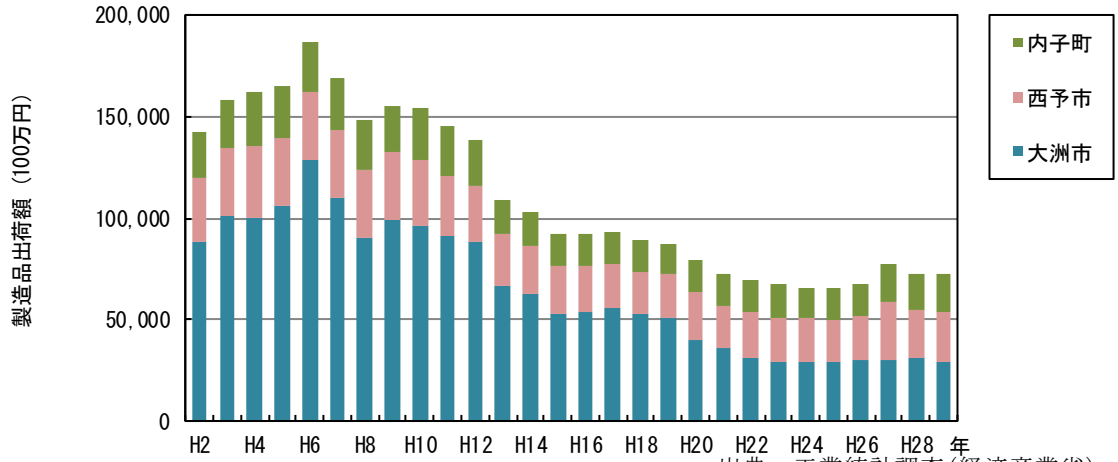


図2.2(7) 肱川流域市町村 製造品出荷額 (工業統計調査)

※ 大洲市・西予市・内子町の合計 西予市は流域外の三瓶・明浜も含む

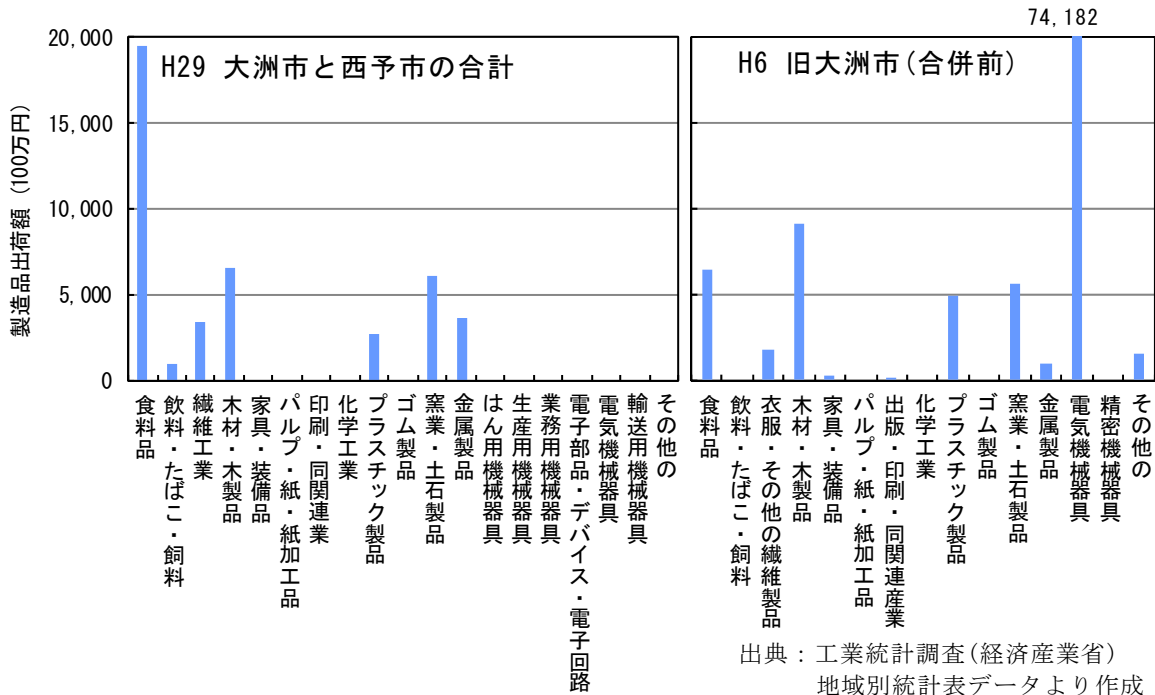


図2.2(8) 肘川流域市町村 産業分類別製造品出荷額 (工業統計調査)

※ 左図：H28大洲市・西予市の合計 西予市は流域外の三瓶・明浜も含む

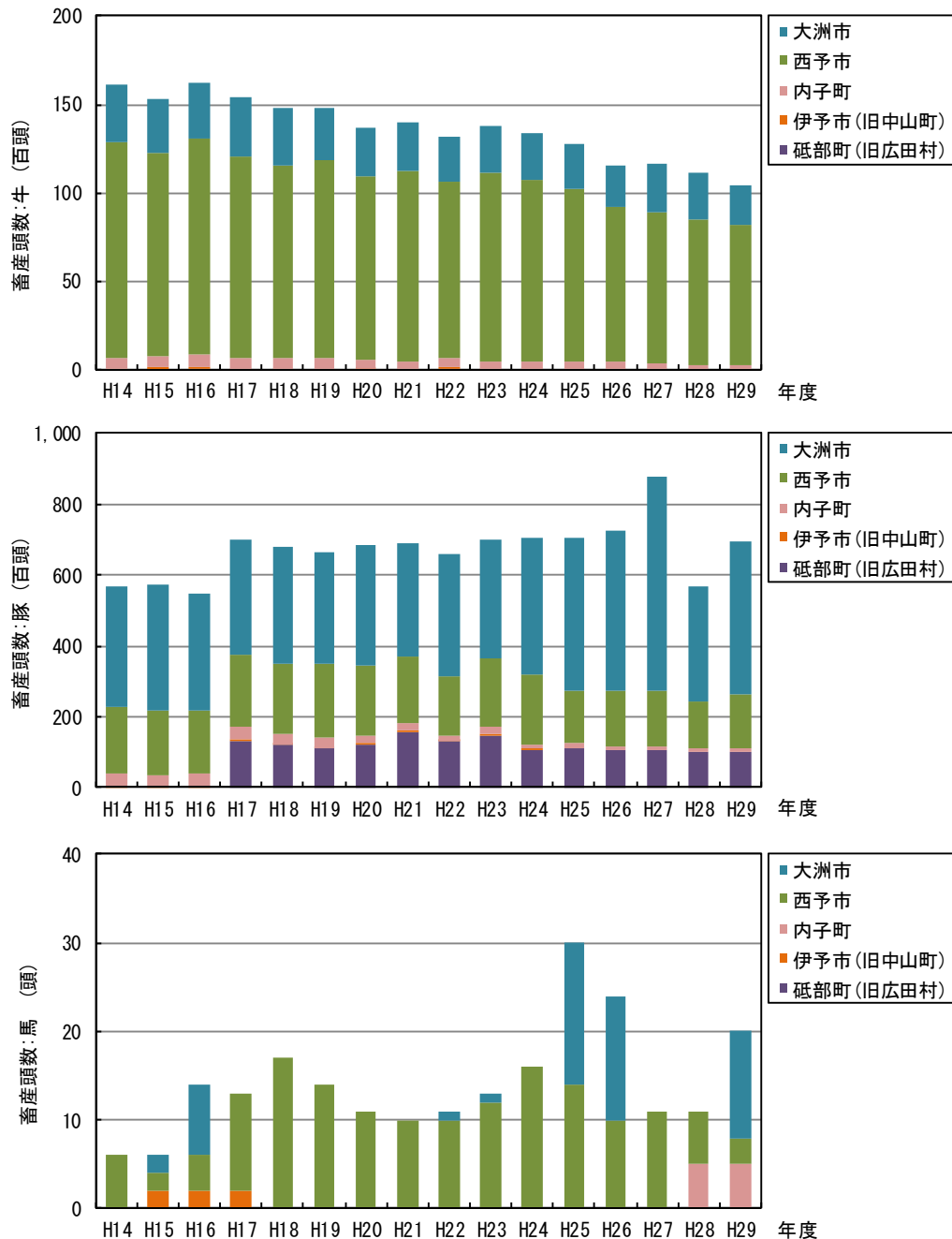
右図：H6合併前の旧大洲市単独分

なお、内子町は製造品出荷額詳細の公表値が無いため除外

## [産業] 畜産

畜産業では馬は最高でも30頭で、牛、豚が主である。牛は徐々に減少傾向にあり、西予市で飼育されている数が多い。豚は大洲市が多く、西予市、砥部町でも飼育されており、大洲市内にはブランド豚の飼育等、積極的な事業展開に取り組む事業者もおり、今後も増加する可能性がある。

(平成28年度、大幅に負荷量が豚の頭数、減少したのは、畜産頭数の統計が出荷後の事業場があったため)



出典：3市2町アンケート

3市2町アンケート結果より作成

図2.2(9) 肘川流域内畜産頭数 (3市2町へのアンケート結果)

※大洲市, 西予市(三瓶, 明浜含まず), 内子町, 伊予市(旧中山町), 砥部町(旧広田村)の合計 一部流域外も含む

※ 当初、旧砥部町の畜産系負荷量を見込んでいなかったが、平成17年度の合併時に旧砥部町に養豚団地がある報告を受け、以降は畜産系負荷量に旧砥部町負荷量を加算



## (2) 肱川と地域の関わり

肱川流域の環境に関連する地域活動、団体を表2.2(1)、(2)、(3)に示す。不定期イベントとしてマルシェやワークショップ等を開き、積極的に地域活性に向けて活動している団体もあり、清掃活動等の環境保全活動を行っている団体も多い。

表2.2(1) 肱川流域の環境関連の地域活動1

団体名	活動内容・目的
肱川流域会議 水中めがね (大洲市)	矢落川清掃等の主に肱川流域での清掃活動の他、「だんだん肱川」として肱川の流域内の高校生や住民の交流会、河川敷を利用した地域交流イベントなどの事業を行っている。
大洲の環境をよくする連絡協議会 (大洲市)	自宅等から会場までごみを拾いながら集まり、ごみについて考えてもらう「530ゴミゼロ運動」を毎年開催しており、また、毎月定例会を行い、各団体の環境についての情報交換を行っている。
菅田清流の会 (大洲市)	年2回の肱川清掃と、清掃の際に切った竹を利用した竹炭つくりを行っている。
大洲環境とエネルギー研究会 (大洲市)	定期的に例会を開催し、講師を迎えて再生可能エネルギーの勉強会や榎谷棚田保存の協力等、環境に関する活動を行っている。
おおずプレミアムマルシェ (大洲市)	「地元産で食卓を彩る、プチ贅沢の日」をコンセプトに、大洲市・喜多郡のこだわりお野菜や加工品等を販売するプレミアムマルシェを、肱川橋下やおおず赤レンガ館等で不定期に開催。
主馬神伝流保存会 (大洲市)	大洲市に受け継がれる古式泳法「大洲神伝流」の保存、継承を行っている。 古式泳法とは、武術の一つ(水連術)として発展してきたもので、現在は全国に12の泳法が継承されており、「神伝流」はその中でも3本の指に入るほどの地域の広がり誇る。また、390余年もの長い歴史を持ち、県内に継承される唯一の古式泳法である。
大洲藩鉄砲隊 (大洲市)	大洲城天守木造復元10周年記念として、平成26年(2014)8月に結成され、現在、鉄砲隊の隊員は14名である(大洲城HP公表)。毎月第3土曜日午後2:00から大洲藩鉄砲隊公開練習を開催。閲覧無料。
城下のMACHIBITO実行委員会 (大洲市)	城下町であった繁栄の歴史の面影が残る大洲市肱南地区で、町家、古民家を活用したアート&クラフトイベントを開催。2017年から1年に1回(2日間)、コンセプト型マルシェを開催。その他、ライブ、アート体験や豆腐作りワークショップ等、多彩なイベントを行っている。専用HPも開設されている。
大洲市地域おこし協力隊	市内では3名の地域おこし協力隊が活動。河辺地域では、地域団体「河辺の未来を考える会」と共に地域の活性化を図る活動を行っている。また、長浜地域の戒川地区では、地域住民と協働し、榎谷棚田の保全活動を行っている(2018.3広報おおず)。
一般社団法人キタ・マネジメント株式会社KITA (大洲市)	インバウンド(訪日外国人旅行者)を含む観光客の消費拡大等により、地域経済の活性化を目指す組織。NPO法人YATSUGIの町並み保全活動や城下(しろした)のMACHIBITOにも参加している。2018年12月に日本版DMOとして候補法人登録された。(株)KITAは、キタ・マネジメント100%出資の不動産管理会社。

表2.2(2) 肱川流域の環境関連の地域活動2

団体名	活動内容・目的
NPO法人YATSUGI (大洲市)	大洲の歴史ある町並みを形成する町家の魅力を守り、活用しながら次の世代に繋げていく役割を担うことで、観光振興及び地域づくりに寄与することを目的としている。地域おこし協力隊で古民家保全活動を行い、地域の方を含め100人を超える人数で町家の清掃等を行った。活動の幅を広げるため2018年9月にNPO法人化。
しるまちゲストハウス (大洲市)	2015年3月にオープンした、肱南地区の古い街並みに位置する小さな宿。Uターンで大洲に戻った三瀬氏が、大洲の魅力を発信するために立ち上げて国内に限らず世界中からゲストを招いている。旅人と地域を紡ぎ、新たな物語が生まれるような場所を目指している。
一般社団法人 肱川流域の環境と治水を考える住民ネットワーク (大洲市：事務局所在地)	肱川流域の環境、治水問題について、流域住民が肱川の現状を認識し、流域全体の視点から相互理解を深めることができるよう、積極的に行動し、提言を行うことを目的として、上下流交流、防災環境啓発、肱川の定期的な水質調査、行政等に対する提言等を実施している。
肱南肱北まちそだ手 (大洲市)	平成27年から年に1回、まちづくりへの意識向上にむけたワークショップを開催。 他の情報なし。
おおなる工房	過疎高齢化の進む地域に対して、さまざまな活性化事業を行い、もって移住しやすく住みやすい地域づくりに寄与することを目的としている。
愛媛生態系保全管理 (内子町)	不特定かつ多数の者に対して、環境保全のための環境教育・体験学習、自然環境の科学的調査・研究等を行い、また研究者、地域住民及び各種団体とのネットワークを構築し、環境保全、生涯学習、地域文化・芸術の振興、住民の安全・健康増進を含んだ総合的なまちづくり等を図り、もって公益の増進に寄与することを目的としている。
凧ネット (内子町)	住民活動を担う個人及び住民団体、及び産業に対して、IT(情報通信技術)の活用により、社会・企業活動における情報化推進に関する指導、助言、啓発、教育、相談、福祉事業を行い、まちづくりの推進及び地域の循環型社会づくり、また国際交流に寄与することを目的としている。
環境NPOサン・ラブ (内子町)	環境にやさしいまちをつくるため、環境の保全を図る活動を通して、町民の環境意識の高揚と環境への負荷を低減する行動を進め、地域資源の循環的な利用促進を構築することで豊かな自然環境と生活環境を次世代に引き継ぎ、公益に寄与することを目的としている。
ODAの木協会 (内子町)	一般市民に対して、森林をテーマに、国際交流や協力活動及びみどり豊かな自然環境の中での環境教育スクール事業をとおして、グローバルな視点に立った教育・文化・経済の発展を促進することを目的としている。
Project A.Y. (内子町)	内子町民及び内子町に訪れる人々に対し、観光レトロバスや観光案内所の運営、商店街の空き店舗対策活性化事業等を行いながら、人々の心のふれあいと快適さ等を追求し、内子町の発展、ひいては社会全体の利益増進に寄与することを目的としている。
見廻りネットワーク (内子町)	大洲市及びその周辺地域の高齢者・障害者に対して、困った時はお互い様の精神もとにいつでもどこでも誰でも地域で自分らしく暮らせる様に、安心と安全を提供する事業を行いながら、地域福祉の向上を図り、公益に寄与することを目的としている。

表2.2(3) 肱川流域の環境関連の地域活動3

団体名	活動内容・目的
うちこ工房 (内子町)	愛媛県内の障害の種別(身体、知的、精神)にかかわらず障害のある全ての人々に対して、必要とする支援に関する事業を行い、障害者の自立支援をはかることによって、公益に寄与することを目的としている。
小田川流域活性化支援センター (内子町)	主に内子町の商工観農林による産業界、商工団体、産業支援機関、地域金融機関、行政、並びに、内子町の農業振興に積極的に取り組む者が有機的かつ濃密に連携して、内子町の活性化に寄与することを目的としている。
内子未来づくりネットワーク (内子町)	内子町民に対して、子どもの健全育成、仕事の創出、まちの活性化、暮らしの充実に関する事業を行い、内子町の持続可能な地域づくりに寄与することを目的としている。
佐礼っこ (伊予市)	高齢者の住民との交流、地域参画を促すことで、知識や知恵、経験が活かせる場を提供して、生きがい・やりがいにつながる仕組みを創造。また、世代間交流や地域外交流を図り、地域活性化、環境保全活動を展開している。

### (3) 市民や民間事業者による河川利活用状況

肱川流域の河川空間は、地域住民が身近に自然とふれあえる憩いの場として様々に利用されている。なかでも夏から秋にかけての鶺鴒いや河原を使ったいもたき、花火大会、高水敷の運動公園、肱川と富士山を借景にした臥龍山荘、高水敷を利用した花畑、五十崎の凧揚げ、子供たちによる流しびな等、四季折々で利用が盛んである。

川まつり花火大会は、幕末から明治ごろの「大洲名所図絵」にも描かれている祭りにつながる、肱川流域で最大の伝統的行事である。また、肱川に見られる独特の治水施設「ナゲ」や、防水林、鮎、独特の鮎漁法である「瀬張り漁」、青海苔のあおさ干し等、歴史的に見ても、肱川は流域の生活に重要な役割を担っている。



<リバーサイドスポーツパーク>



<菜の花まつり>



<ジュニアトライアスロン>



<寒中水泳>



<鶺鴒い>



<花火大会>



<いもたき>



<流しびな>



<渡場のナゲ>



<あおさ干し>



<肱川沿いに残る防水林>

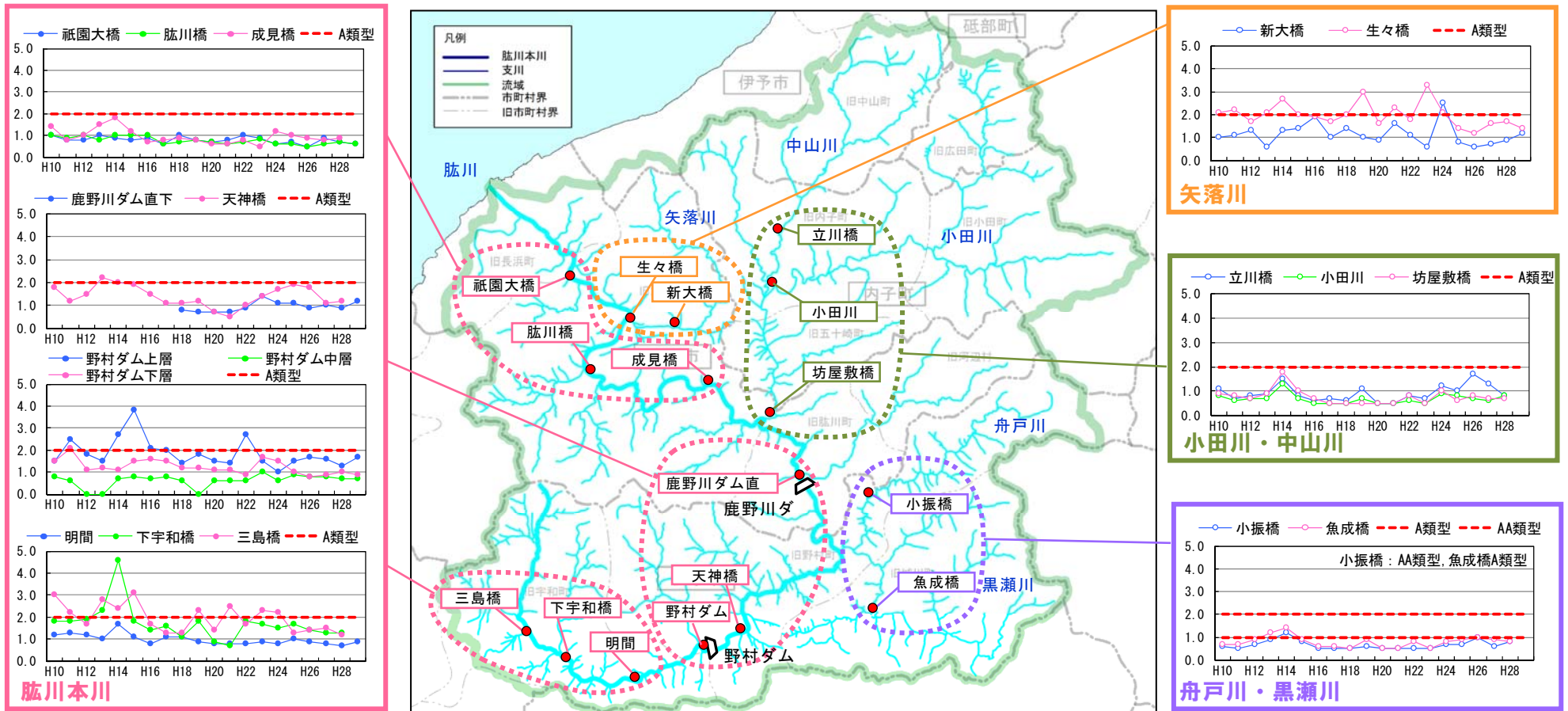


<瀬張り漁と焼鮎>



#### (4) 肱川の水環境

肱川本川では概ね改善傾向で環境基準を満足しているが、最上流の三島橋は変動が大きく、環境基準を超過する年がある。支川では矢落川のBODが高い傾向があり、特に生々橋では環境基準を超過する年がある。他の支川は低く、清澄な状態を維持している。



出典：肱川流域の汚濁排出負荷量の削減状況について(肱川流域清流保全推進協議会)

図2.2(10) 肱川流域のBOD年75%値の変化(mg/L)

## 2.3 肱川におけるかわまちづくりへの住民の意見・要望

関係機関ヒアリング及び平成29年度に開催された肱川かわまちづくり協議会準備会(第1回・第2回)及び肱川かわまちづくり協議会(第1回)において、まちづくり関係者や住民から出された意見を以下に整理する。

移動軸、施設整備、アクセスの向上に関するハード的な整備に関する意見や要望の他、肱川の観光産業において主要な位置を占める鵜飼い、鮎漁、カヌーについても問題点や改善点について意見が多く出ている。

関係機関ヒアリングでは、ボランティア団体等へもヒアリングを行ったため、河川、施設、樹木等の維持管理についての意見が多く出ている。

鵜飼い、カヌー、瀬張り漁の時期が重なるとの声があり、同時に実施するためのルール作り、合意形成が必要である。

表2.3(1) 肱川におけるかわまちづくりへの住民の意見・要望1

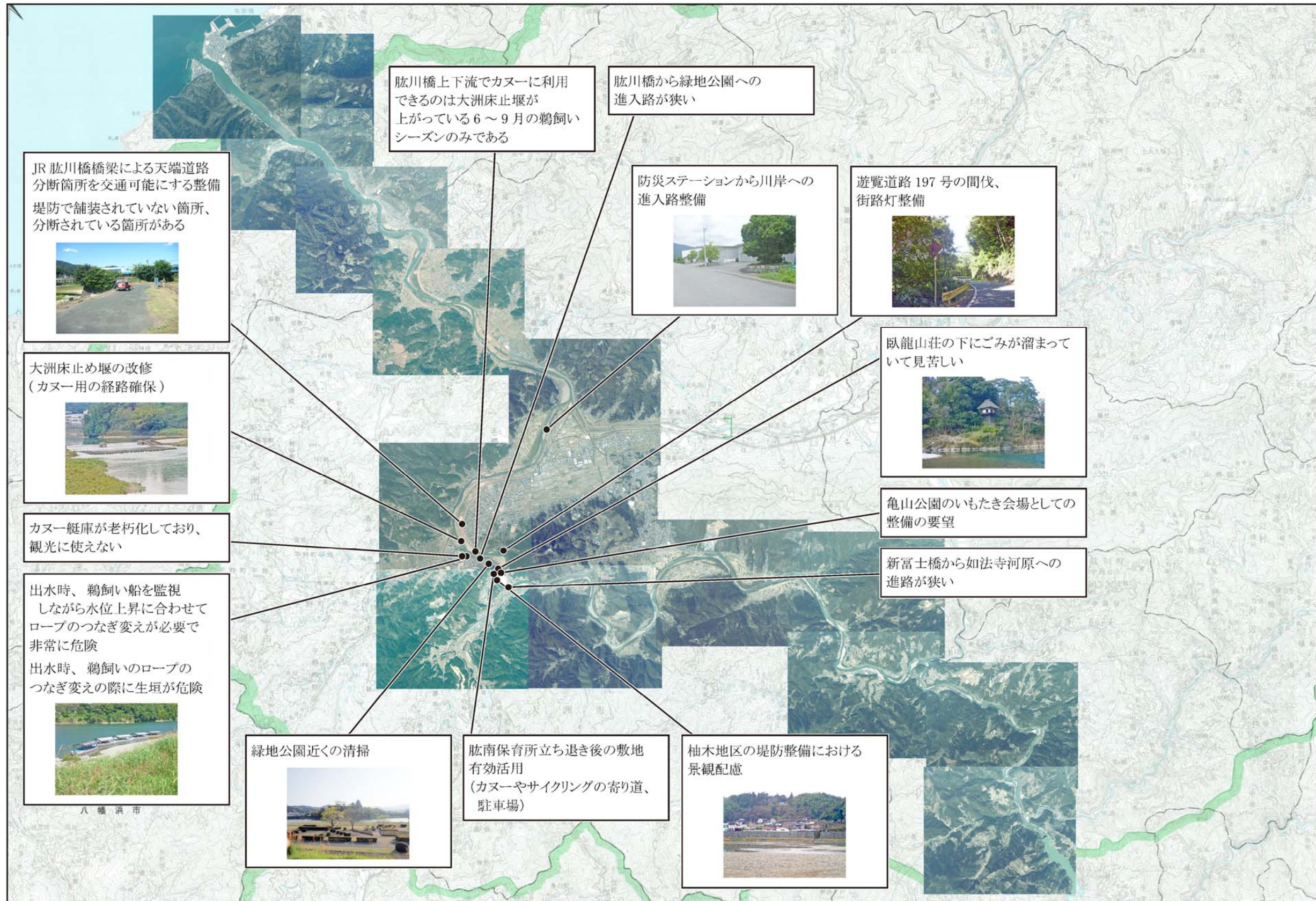
分類	住民の意見・要望	概要
移動軸	観光ルートを作ることが先決	観光バス路線等移動手段を含めた観光ルートを作ることが必要。
	長浜と鹿野川湖をつなぐ観光バス路線	
	堤防沿いのジョギング、サイクリングロード整備	堤防沿いを通して移動できるジョギング・サイクリングロードの要望があるが、JR 肱川橋橋梁箇所で大洲道路が分断されている。
	JR 肱川橋橋梁による大洲道路分断箇所を交通可能にする整備	
	堤防で舗装されていない箇所、分断されている箇所がある	鹿野川ダムから長浜まで川の中を移動するカヌー、遊覧船の要望があるが、大洲床止堰で分断されている。
	大洲床止堰の改修(カヌー用の経路確保)	
ダムから長浜までの遊覧船整備		
施設整備	肱南地区の修景護岸におけるオープンデッキ設置	オープンデッキやフットパス、親水公園、キャンプ場等の川沿いの施設整備の要望がある。サイクリングに向けた駐輪場のある水辺拠点の要望がある。
	肱南保育所立ち退き後の敷地有効活用(カヌーやサイクリングの寄り道、駐車場)	
	川沿いのフットパス(散策道)整備	
	亀山公園のいもたき会場としての整備	
	親水的な公園、キャンプ場の整備	
	子供たちが安全に水に触れ合う場が少ない	
	駐輪場のある水辺拠点が必要	
肱南公民館周辺整備で、オープンデッキ、カヌー携行もできる複合施設の計画がある	肱南公民館周辺整備で複合施設の計画がある。	
アクセス	大洲道路からアクセスの良い水辺が少ない	河川敷きへのアクセスが悪い。進入路は狭い箇所が多く、車両で進入できる箇所の整備と案内表示の要望がある。
	肱川橋から緑地公園への進入路が狭い	
	新富士橋から如法寺河原への進入路が狭い	
	防災ステーションから川岸への進入路整備	
	河川に降りる進入路の拡幅と案内表示	
	車で河川に降りることのできる進入路整備	

表2.3(2) 肱川におけるかわまちづくりへの住民の意見・要望2

分類	住民の意見・要望	概要
イベント	伝統的な網、漁法を知ってもらうイベント開催	肱川の歴史と自然に関連した行事の開催の要望がある。漁業や魚に関するイベントの要望が多い。
	博物館と連携した「川文化」に関するイベント開催	
	国土交通省の調査を子供たちが知るイベントの開催	
	生きた生物、魚を見る機会の創出(長浜高校の水族館)	
	釣った鮎を河原で焼いて食べるイベントの開催	
鶺鴒い・鮎漁	鶺鴒いの期間が短いため、期間の延長が望まれている	鶺鴒いの営業期間が短い、洪水時の水位上昇に合わせてロープのつなぎ変えが必要で非常に危険
	出水時、鶺鴒い船を監視しながら水位上昇に合わせてロープのつなぎ変えが必要で非常に危険	
	出水時、鶺鴒いのロープのつなぎ変えの際に生垣が危険	
	出水後は増水で5日～1週間程度、鶺鴒いの営業ができない	出水による営業停止等の問題がある。
	鶺鴒いの舟だまり整備	
	出水時の船の逃げ場や広場の整備	鶺鴒い舟のための舟だまり、出水時の逃げ場や広場の要望がある。
	瀬張り漁の観光的な利用は漁獲量が予測不可能なこと、漁が早朝であることから難しい	瀬張りの観光利用は難しい。
カヌー	カヌー体験がまちなかでできるのは大洲市のメリットである	カヌー体験がまちなかでできるのは大洲市のメリットであり、カヌー利用に向けて、川沿いの艇庫やシャワー、スロープ整備等の要望がある。
	カヌー艇庫が老朽化しており、観光に使えない	
	カヌーの降りやすいスロープ整備	
	肱川沿いへのカヌー艇庫、シャワー設備設置	
維持管理	整備後の維持管理(河道内)が行き届いていない	河道、護岸、河畔林、公園において除草、樹木伐採、清掃等の維持管理が行き届いていない問題がある。
	臥龍山荘の下にごみが溜まっていて見苦しい	
	竹藪を残した肱川護岸の樹木伐採	
	緑地公園近くの清掃	
	肱川の河道内の樹木、雑草の管理	
	河畔林の整備	
	遊覧道路 197 号の間伐、街路灯整備	
合意形成	カヌーが通ると鮎漁が1～2時間できない	カヌー、鮎漁、鶺鴒い、遊覧船は時期が重なるため、合意形成が難しい問題がある。
	観光シーズン、鶺鴒い、カヌー、瀬張りの時期が重なる	
	肱川橋上下流でカヌーに利用できるのは大洲床止堰が上がっている6～9月の鶺鴒いシーズンのみである	
	遊覧船の整備が望まれるが、観光シーズンと瀬張りの時期が重なる	
その他	「伊予の小京都」が「水の小京都」となると良い	
	ダム放流による濁水の漁業への影響	
	柚木地区の堤防整備における景観配慮	



具体的に場所や施設名が出た箇所についての意見・要望を地図上に整理した(図2.3)。肱南・肱北に関するものが多く、同地区は地域住民にとっても重要な地域であると言える。



出典：肱川流域平面図、国土地理院ウェブサイト(<https://mapps.gsi.go.jp/>)  
 肱川流域平面図、空中写真(国土地理院)より作成

図2.3 具体的な場所、施設名が出た箇所における住民の意見・要望



## 2.4 現状と問題点の整理

前項までの内容より、肱川かわまちづくりにおける現状と問題点を下図に整理する。

大洲市の概況	地勢	大洲市は松山方面と八幡浜、宇和島、高知方面への玄関口、結節点である。肱川流域に沿って田畑や集落、市街地が形成されている。肱川の地形的特徴から洪水被害が多い。
	人口	総人口は減少傾向、人口割合では少子高齢化が進んでいる。
	観光	「伊予の小京都」と呼ばれ、観光資源が多い。肱川沿いには鶴飼い、いもたき、歴史的町並み、臥龍山荘等、観光資源が数多い。まちの駅、道の駅の利用者数が多い。
	観光・景観資源	多数の文化財を有し、多くが肱南・肱北地区に集中している。
まちづくり	まちづくりにおいて「肱川」は重要な位置を占めている。「肱川」と「歴史」を中心に置いたまちづくりが進められている。肱川は第2次大洲市総合計画で肱川流域連携軸、大洲市景観計画で河川景観軸に指定されている。方針等では重点区域や軸の設定があるものの、具体的な整備は点的整備が多く、線的・面的整備の計画は少ない。まちづくり資源の多くが肱南・肱北地区に集中している。肱南・肱北地区及びその周辺を重点地区としている計画が多い。	

肱川及び肱川流域の概況	地勢	数多くの支川を合わせながら大洲盆地を貫流して、伊予灘に注ぐ愛媛県一の大河川。大洲市東大洲地区は、内陸型の産業拠点地域として多くの企業が進出し、新たな雇用が生まれている。
	人口	流域内の人口は3市5町全てが減少傾向にある。年齢区分で見ると少子高齢化が進んでいる。都谷川流域の人口密度は他の流域と比較すると著しく人口が密集している。
	産業	産業別就業者数は第3次産業へのシフトが進んでいる。製造品出荷額は平成6年をピークに減少傾向にある。河川改修による浸水対策等が進み、大洲市が東大洲地区等に企業誘致を実施している。大洲市が工業都市から商業都市への変遷している。畜産業では牛は徐々に減少傾向にあり、豚は徐々に増加する傾向にある。大洲市内にはブランド豚の飼育等、積極的な事業展開に取り組む事業者もいる。マルシェやワークショップ等を開き、積極的に地域活性に向けて活動している団体がある。
	地域との関わり	肱川流域で環境保全に関する地域活動を行っている団体は多い。肱川流域の河川空間は地域住民により四季折々で利用が盛んである。歴史的に見ても肱川は流域の生活に重要な役割を担っている。
水環境	BODは肱川本川では概ね改善傾向で、支川では矢落川のBODが高い傾向がある。	

住民の意見・要望	観光バス路線など移動手段を含めた観光ルートを作ることが必要。堤防沿いを通して移動できるジョギング・サイクリングロードの要望があるが、JR肱川橋樑橋箇所で天端道路が分断されている。鹿野川ダムから長浜まで川の中を移動するカヌー、遊覧船の要望があるが、大洲床止堰で分断されている。オープンデッキやフットパス、親水公園、キャンプ場等の川沿いの施設整備の要望がある。サイクリングに向けた駐輪場のある水辺拠点の要望がある。肱南公民館周辺整備で複合施設の計画がある。河川敷きへのアクセスが悪い。進入路は狭い箇所が多く、車両で進入できる箇所の整備と案内表示の要望がある。肱川の歴史と自然に関連した行事の開催の要望がある。漁業や魚に関するイベントの要望が多い。鶴飼いの営業期間が短い、洪水時の水位上昇に合わせたロープのつなぎ変えの危険性、出水による営業停止等の問題がある。鶴飼い舟のための舟だまり、出水時の逃げ場や広場の要望がある。瀬張りの観光利用は難しい。カヌー体験がまちなかでできるのは大洲市のメリットであり、カヌー利用に向けて、川沿いの艇庫やシャワー、スロープ整備等の要望がある。河道、護岸、河畔林、公園において除草、樹木伐採、清掃等の維持管理が行き届いていない問題がある。カヌー、鮎漁、鶴飼い、遊覧船は時期が重なるため、合意形成が難しい問題がある。
----------	---

まちの現状と問題点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○少子高齢化、第3次産業へのシフトが進んでいる</li> <li>○工業は低下傾向で、畜産は牛が減少傾向にあるが、豚が増加傾向でブランド豚に取り組む事業者もいる</li> <li>○農業はいもたきの材料のさといもについて地域特産品として積極的な展開</li> </ul>	社会条件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○肱南・肱北地区は観光・景観拠点として、大洲市東大洲地区は産業拠点としての役割</li> <li>○肱南・肱北地区、長浜地区は文化財等が集中</li> <li>○「肱川」・「歴史」を中心に置いたまちづくり</li> <li>○方針に軸、拠点設定はあるものの、具体的な整備は点的整備が多く線的・面的整備計画は少ない</li> </ul>	大洲市のまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>○大洲市は観光資源を数多く有し、肱川沿いにも鶴飼い、いもたき、臥龍山荘等がある</li> <li>○鶴飼いは主要観光事業に位置付けられているが、営業期間、洪水時等の対応等が問題</li> <li>○カヌーによるまちづくりが期待されるが、時期や場所の制限、カヌー用の設備が少ない等が問題</li> <li>○観光シーズン、鶴飼い、カヌー、瀬張りの時期が重なり、合意形成が難しい</li> </ul>	観光資源
<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちの駅や道の駅等の観光客は、増加傾向</li> <li>○移動手段を考慮した観光ルートの設定が必要</li> <li>○歴史や自然を知るイベント開催の要望</li> </ul>	観光振興

かわの現状と問題点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの支川を有する愛媛県一の大河川</li> <li>○肱川に沿って市街地が形成されている</li> <li>○肱川は洪水被害が多く、水位変動が大きい</li> <li>○肱川流域に汚濁の著しい支川がある</li> </ul>	社会条件
<ul style="list-style-type: none"> <li>○肱川は流域住民の生活、観光、漁業等において重要な役割を担い、歴史的にも深いつながり</li> </ul>	役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民は四季折々で河川空間を利用</li> <li>○地域活性化、環境保全に関する地域活動を積極的に行っている団体もある</li> <li>○水辺の拠点、水辺に触れ合う場、アクセス道路、進入路、案内標識の設置等の要望</li> <li>○川沿いのジョギング、サイクリングロード、フットパス(散策道)の要望</li> <li>○堤防沿い及び川の中を、鹿野川ダムから河口まで通して移動できる整備の要望</li> </ul>	河川利用
<ul style="list-style-type: none"> <li>○河道内、観光資源、公園等の維持管理が行き届いていない</li> </ul>	維持管理

図2.4 肱川かわまちづくりにおける現状と問題点

## 2.5 課題の抽出

前項のかわまちづくりにおける現状と問題点より、課題の抽出を行った。また、課題を元にかわまちづくりの理念、方針案を検討した。肱川かわまちづくりは一過性のものであってはならず、将来にわたって活力ある地域づくりをすることが肝要であり、基本理念は「清流肱川とともに成長するかわまちづくり」とする。

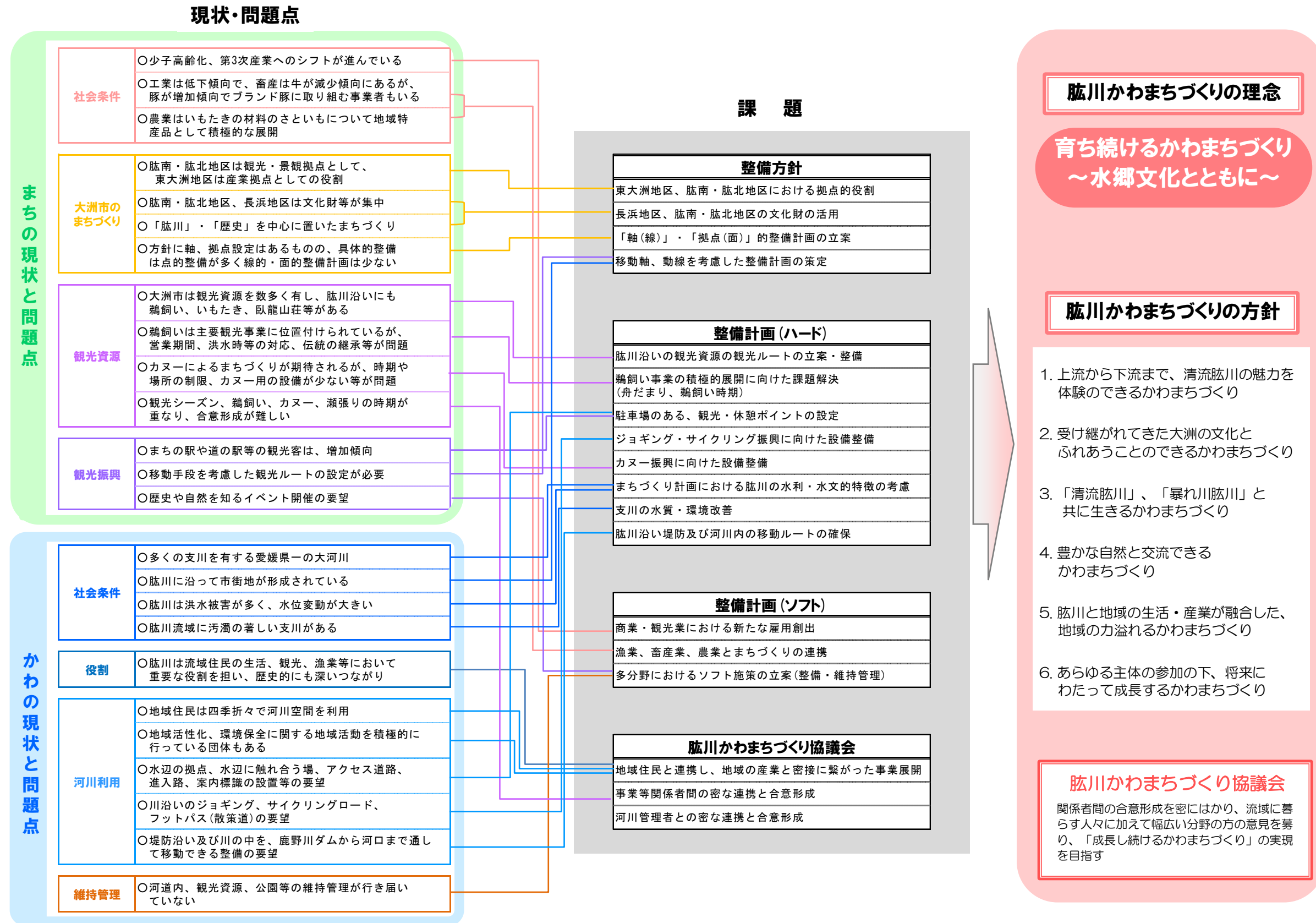


図2.5 肱川かわまちづくりにおける課題及び理念と方針



### 3 肱川かわまちづくりの整備方針

#### 3.1 肱川かわまちづくりの理念

肱川とともに歩んできた歴史、文化、伝統を活かしながら、将来にわたって活力ある地域づくりを進めるため、肱川かわまちづくりの基本理念は以下とする。

#### 肱川かわまちづくりの理念

水郷文化とともに  
育ち続けるかわまちづくり

#### 3.2 肱川かわまちづくりの方針

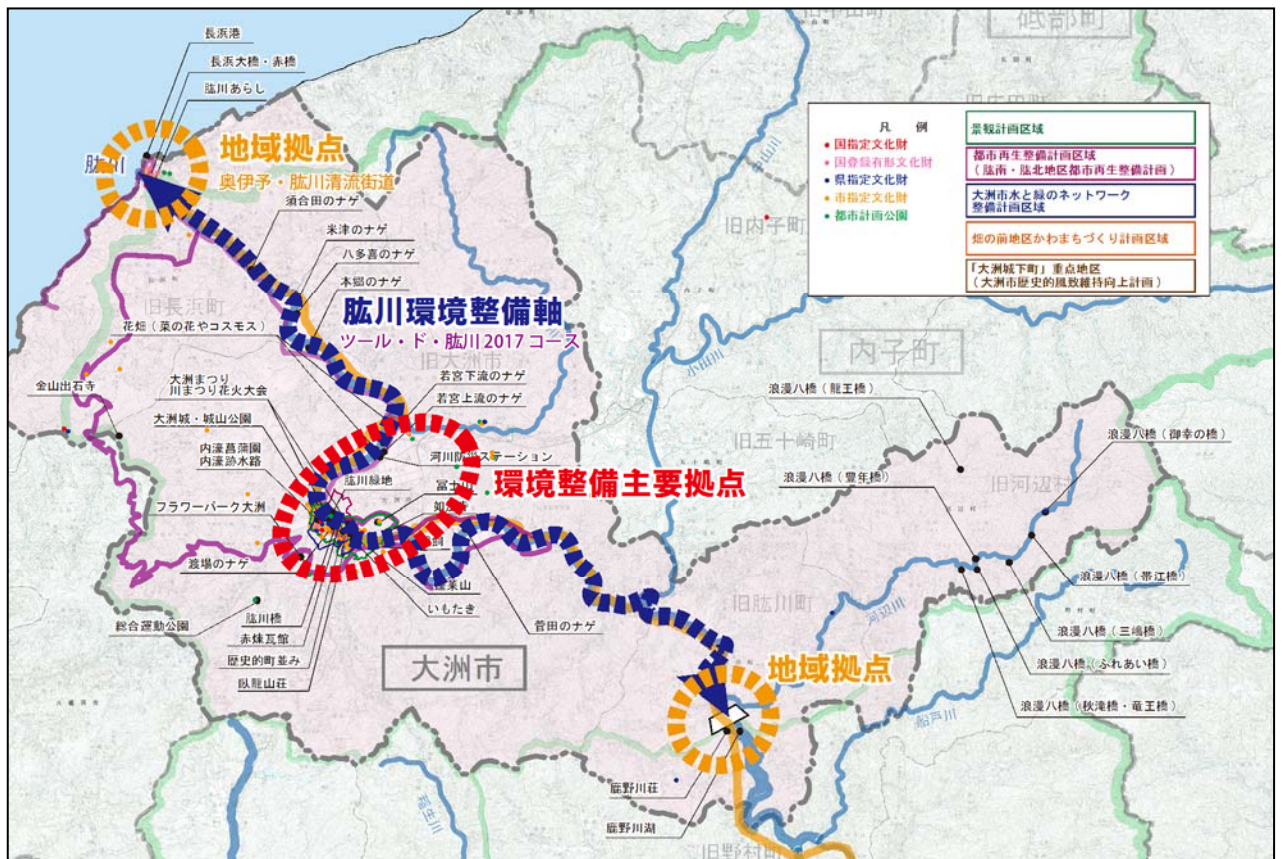
肱川と大洲の持つ魅力を最大限に活用し、安全、安心に配慮しながら地域に住む人、行政が一体となって進めるかわまちづくりを目指し、肱川かわまちづくりの方針は以下とする。

#### 肱川かわまちづくりの方針

1. 上流から下流まで、清流肱川の魅力を全て体験できるかわまちづくり
2. 受け継がれてきた大洲の文化・歴史とふれあうことのできるかわまちづくり
3. 「清流肱川」、「暴れ川肱川」と共に生きるかわまちづくり
4. 豊かな自然と交流できるかわまちづくり
5. 肱川と地域の生活・産業が融合した、地域の力溢れるかわまちづくり
6. あらゆる主体の参加の下、将来にわたって成長するかわまちづくり

### 3.3 整備方針(ゾーニング)

鹿野川湖下流から長浜までの肱川下流域の一体的整備を図るため、肱川本川を環境整備軸として位置づけし、地域活性化を図るため、産業拠点である東大洲地区、文化財、公園等、観光資源が集中する肱南・肱北地区周辺を環境整備主要拠点として設定する。また、肱川環境整備軸の始端、終端となる長浜、鹿野川湖周辺を整備拠点として設定する。各拠点・軸の整備方針を次ページ以降の通り設定する。



出典：肱川流域平面図  
 肱川流域平面図より作成

図3.3(1) 肱川水系環境事業 整備方針



## 【 肱川環境整備軸 】

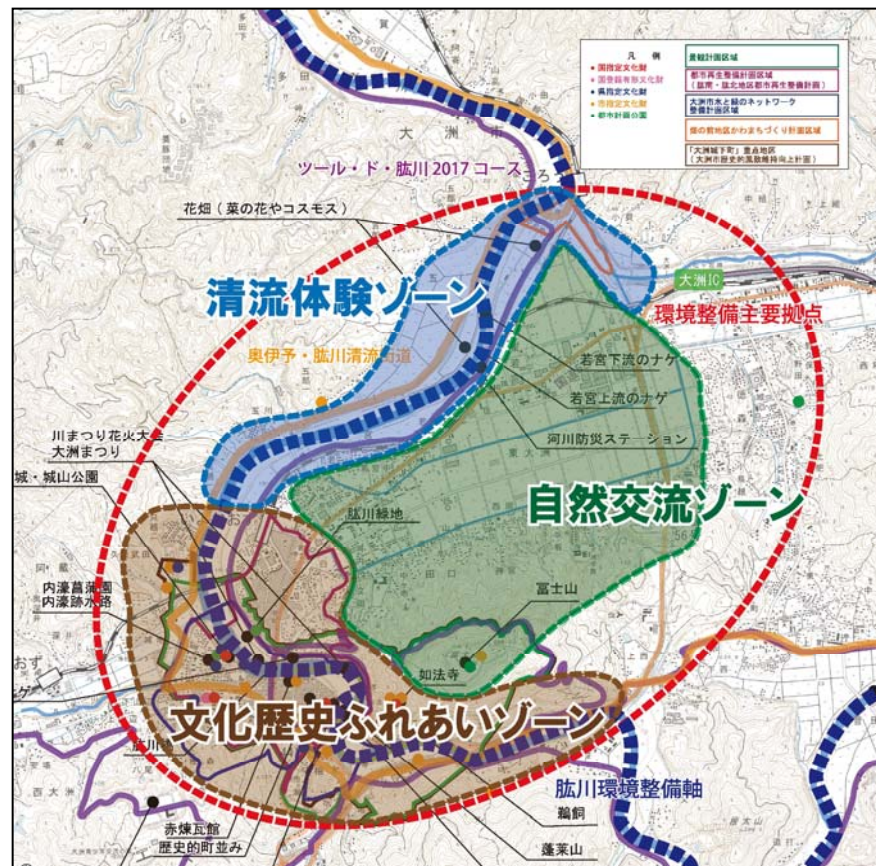
### 肱川を見失うことのない広域移動軸の整備

地域拠点、環境整備主要拠点をつなぐ広域移動軸の整備を行い、水郷大洲を通る肱川の魅力を最大限に活用して地域活性化を図る。愛媛県全域で推進しているサイクリング、愛媛国体2017開催等により関心が高まっているカヌー、昨今地域活性化に重要な役割を果たしているマラソンやランニングを対象に、肱川を鹿野川湖下流から長浜まで自転車、徒歩、カヌーで移動できる移動経路を確保する。

## 【 環境整備主要拠点 】

### 清流肱川、歴史、自然のゾーン別整備

肱南地区から畑の前地区に向けて清流肱川、河川敷の景色を見ながらサイクリングやカヌーで移動できる「清流体験ゾーン」、大洲城や歴史的町並み、鶯飼い等、「伊予の小京都」を満喫できる「文化歴史ふれあいゾーン」、富士山を背景に豊かな田園風景が広がる「自然交流ゾーン」の3ゾーンに分けて整備を行う。



出典：2万5千分1地形図(国土地理院)  
大洲・東多田より作成

図3.3(2) 環境整備主要拠点 ゾーニング図

## 【 地域拠点 】

### 広域移動軸の始点、終端として整備

既にサイクルオアシスがあり、カヌーの発着場として利用がある地域であるため、広域移動軸の始端、終端としてより利便性が向上する整備を行う。

### 3.4 肱川かわまちづくり推進体制

かわまちづくり計画策定に向けた推進体制を図3.4(1)に示し、具体的な推進プロセスを図3.4(2)に示す。「市町村、民間事業者及び地元住民と連携の下、実現性の高い水辺の整備・利用に係る取組みを定める(最新の「かわまちづくり」支援制度実施要綱より)ため、肱川かわまちづくり協議会を設立する。また、将来的にかわまちづくりを発展させていくためには、NPOや民間企業、学識者等を巻き込み、地域全体で組織的にかわまちづくり事業を進めていくことが望まれる。(図3.4(3))。

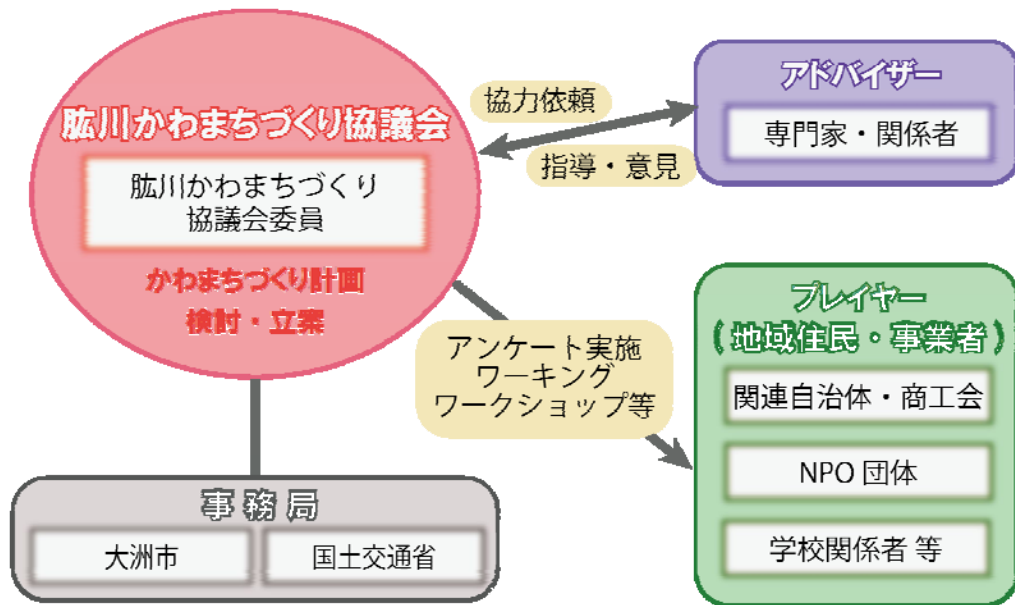


図3.4(1) 肱川かわまちづくり推進体制

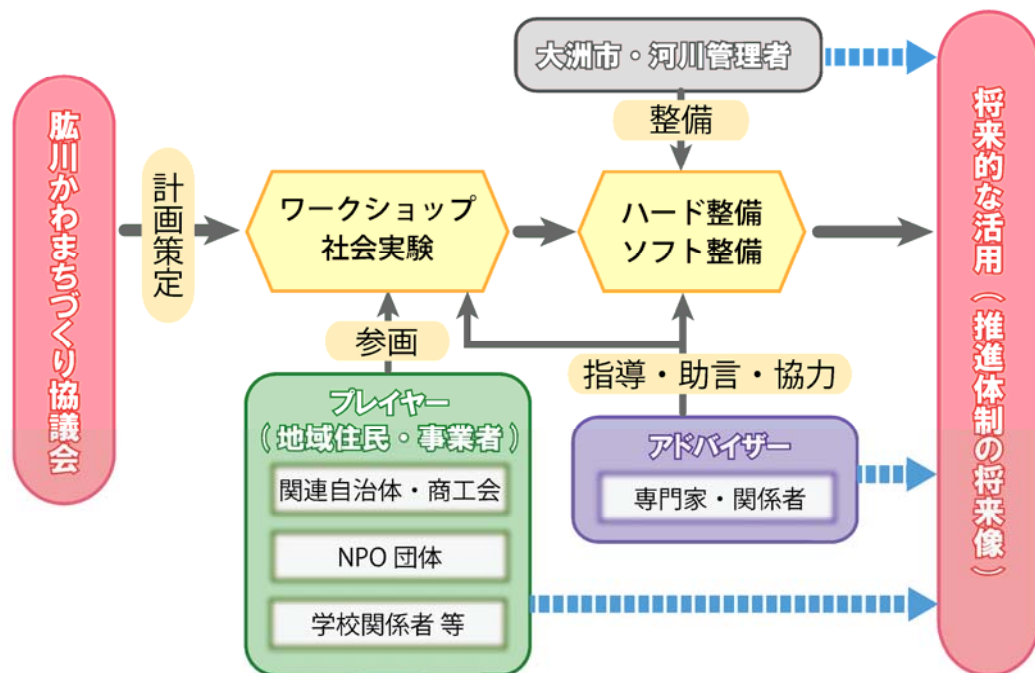


図3.4(2) 肱川かわまちづくり推進プロセス



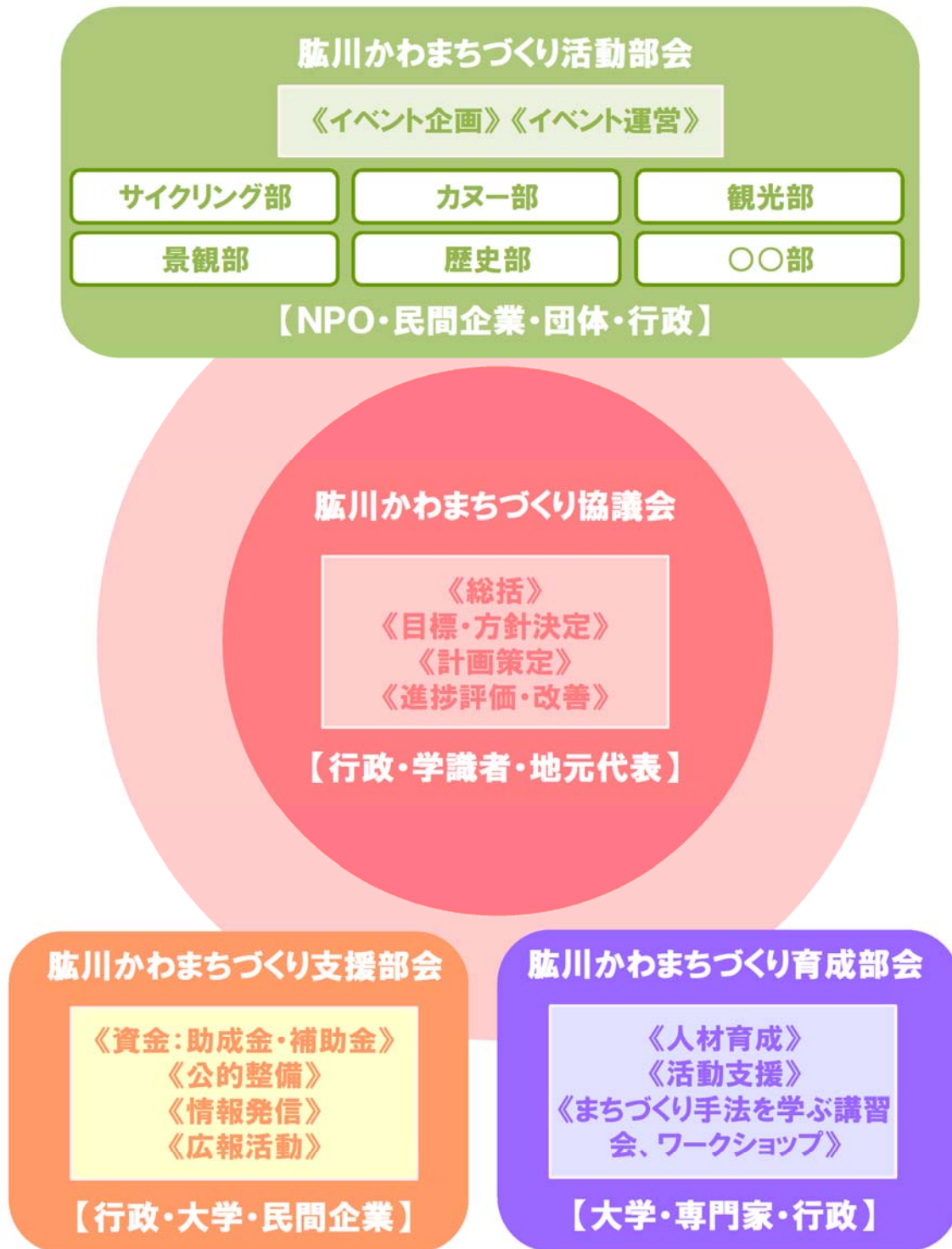


図3.4(3) 脇川かわまちづくり推進体制の将来像

## 4 肱川かわまちづくり整備構想

### 4.1 肱川かわまちづくり整備構想

肱川かわまちづくり協議会ワークショップにおいて、①～⑧に示す8項目の整備メニューが挙げられた。協議会本体の議事の中でも共通の意見が多く出ており、その他に、⑨ 鵜飼い・いもたきの積極的展開、⑩既存施設のストック効果を目的とした改善、維持管理の必要性が挙げられている。これらの項目について、肱川かわまちづくり整備構想として、肱川環境整備軸、環境主要拠点(ゾーン別)、地域拠点のどの部分における整備メニューか整理したものを図4.1に示す。

### ① カヌー・SUPの拠点づくり

観光客と地域住民の両方を対象に効果が見込める。  
遊びながらの移動手段であり、肱川全体を楽しむ仕掛けとなる。  
SUPヨガ等、景色を見ながら定点で楽しむ工夫もできる。  
拠点を川港として整備し、一致したイメージにすることで肱川全体の統一感を図ることも可能。

### ② 河辺の遊び場づくり

観光客と地域住民の両方を対象に効果が見込める。  
キャンプ・バーベキュー等のイベントのしやすい環境をつくる。  
トイレ等の必要な施設の設置が必要である。  
地域の事業者と連携した運営等が考えられる。

### ③ サイクリングコースの設置

観光客と地域住民の両方を対象に効果が見込める。  
遊びながらの移動手段であり、肱川全体を楽しむ仕掛けとなる。

### ④ 散歩コースの設置

観光客と地域住民の両方を対象に効果が見込める。  
遊びながらの移動手段であり、肱川全体を楽しむ仕掛けとなる。

### ⑤ 肱川を活かした参加型ツアーの常設

観光客を対象に効果が見込める。  
遊びながらの移動手段であり、肱川全体を楽しむ仕掛けとなる。  
肱川の地域特色を活かした参加型ツアーを組む。  
ナゲ・竹林・河道・橋・遊覧等をキーワードとする。

### ⑥ 地域イベントの開催

観光客と地域住民の両方を対象に効果が見込める。  
肱川の地域特色を活かしたイベントを開催する。  
カヌー、竹、石投げ、運動会等をキーワードとする。

### ⑦ 河川空間を活用した飲食施設の設置

観光客と地域住民の両方を対象に効果が見込める。  
河川空間を利用した飲食施設を設置する。

### ⑧ 肱川を活かした観光スポット・ツアーの設置

主に観光客を対象に効果が見込める。  
観光はスポットで楽しむものが多いが、スポットを結びツアーとすることで肱川全体を楽しむ仕掛けにもできる。  
肱川の地域特色を活かす。竹・歴史・橋・肱川あらし等をキーワードとする。

### ⑨ 鶺鴒飼い・いもたきの積極的展開

西日本豪雨の復興シンボルとして認知度が高い鶺鴒飼い、地域住民の季節イベントとして親しまれているいもたきを積極的に展開する。  
現在有する課題の解決を図る。

### ⑩ 既存施設の改善、維持管理

観光客と地域住民の両方を対象に効果が見込める。  
整備済みの畑の前地区や内濠菖蒲園、防災ステーション等の有効活用、適切な維持管理により既存施設を有効利用する。  
肱南公民館周辺整備の計画があり、連携した計画が可能である。



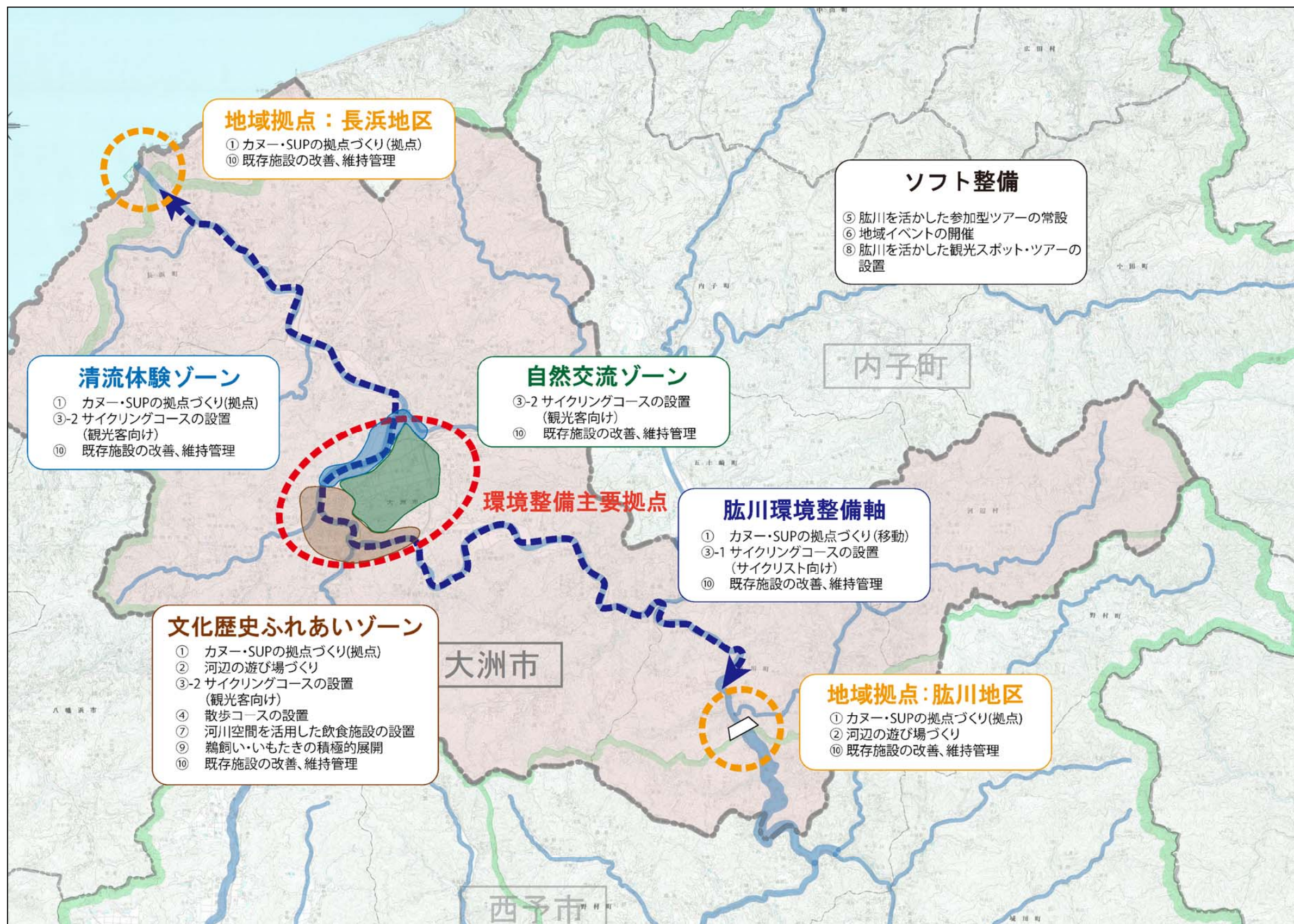


図4.1 肱川かわまちづくり整備構想

出典：肱川流域平面図  
 肱川流域平面図より作成



## 4.2 肱川かわまちづくり全体スケジュール

### (1) 肱川かわまちづくり全体計画

大洲市全域で効果的、効率的にかわまちづくりを進めるため、肱川かわまちづくり全体スケジュールを策定する。第1期から第3期に分け、拠点、軸毎に順次進めるものとする。第1期～第3期の肱川かわまちづくり計画を図4.2に示す。



図4.2 第1期～第3期 肱川かわまちづくり計画

出典：肱川流域平面図  
肱川流域平面図より作成



## (2) 肱川かわまちづくり全体スケジュール

肱川かわまちづくり全体スケジュールは、第1期から第3期に分け、拠点、軸毎に順次進めるものとする。第1期は肱川全体の活用の芯となる「肱川環境整備軸」及び歴史的観光施設が集中し、観光の拠点となる肱南・肱北地域の「文化歴史ふれあいゾーン」を令和2～6年にかけて行い、以降、地域拠点となる長浜地区、肱川地区を第2期、肱川体験ゾーン及び自然交流ゾーンを第3期として整備する。

肱川かわまちづくり全体スケジュール（案）を表4.2に示す。

表4.2 肱川かわまちづくり全体スケジュール（案）

期	整備内容	事業主体	R2	R3	R4	R5	R6	第2期	第3期	
第1期	水辺拠点(かわみなど)整備	国・市	■							
	水辺広場整備	国・市	■				■			
	フットパス等整備	国・県・市	■							
第2期	地域拠点：長浜地区、肱川地区	国・県・市						■		
第3期	清流体験ゾーン、自然交流ゾーン	国・県・市							■	